

# 2020年度 教育課程

学校法人 医療創生大学  
岡山・建部医療福祉専門学校

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

## 【 教育課程 目次 】

I 教育理念	-----	1
II 教育目的・目標	-----	1
1. 教育目的	-----	1
2. 教育目標	-----	1
3. 看護の主要概念	-----	2
4. 学年別目標	-----	3
III 学科進度表	-----	4
IV 教育課程概要	-----	6
1. 教育課程とは	-----	6
2. 教育課程の構成	-----	6
V 教育課程シラバス（臨地実習を除く）	-----	15～101

## 【 V 教育課程 シラバス 目次 】

### 1. 基礎分野

看護物理学	-----	17
統計学	-----	18
情報科学	-----	19
生命倫理学	-----	20
教育学	-----	21
医療英語Ⅰ	-----	22
医療英語Ⅱ	-----	23
社会学	-----	24
人間関係論	-----	25
論理学	-----	26
心理学	-----	27
死生学	-----	28
保健体育	-----	29

### 2. 専門基礎分野

解剖生理学Ⅰ（人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液）	-----	33
解剖生理学Ⅱ（血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整）	-----	34
解剖生理学Ⅲ（体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み）	-----	35
解剖生理学Ⅳ（神経系・感覚器・体表から見た人体構造）	-----	36
生化学	-----	37
栄養学	-----	38
薬理学	-----	39
病理学	-----	40
微生物学	-----	41
病態生理学Ⅰ（概論・皮膚・免疫・体温）	-----	42
病態生理学Ⅱ（体液・血液）	-----	43
病態生理学Ⅲ（循環・呼吸）	-----	44
病態生理学Ⅳ（消化器・腎・泌尿器）	-----	45
病態生理学Ⅴ（内分泌・代謝・生殖器）	-----	46
病態生理学Ⅵ（脳・神経・筋・感覚器）	-----	47
リハビリテーション論	-----	48
総合医療論	-----	49

医療経済論	50
看護関連法令	51
社会保障	52
公衆衛生学	53

### 3. 専門分野Ⅰ

看護学概論	57
看護理論	58
基礎看護学援助論Ⅰ（対人関係成立の技術）	59
基礎看護学援助論Ⅱ（療養環境に関する技術）	60
基礎看護学援助論Ⅲ（安楽・活動と休息に関する技術）	61
基礎看護学援助論Ⅳ（清潔・栄養・排泄に関する技術）	62
基礎看護学援助論Ⅴ（観察技術（フィジカルアセスメントに関する技術））	63
基礎看護学援助論Ⅵ（検査・与薬に関する技術）	64
基礎看護学援助論Ⅶ（看護過程）	65
基礎看護学援助論演習	66

### 4. 専門分野Ⅱ

成人看護学概論（看護の対象と目的）	69
成人看護学援助論Ⅰ（生活行動に障害のある患者の看護）	70
成人看護学援助論Ⅱ（周手術期にある患者の看護）	71
成人看護学援助論Ⅲ（緩和ケアを必要とする患者の看護）	72
成人看護学援助論Ⅳ（生命の危機状態にある患者の看護）	73
成人看護学援助論Ⅴ（生涯にわたり健康コントロールを必要とする患者の看護）	74
老年看護学概論（看護の対象と目的）	75
老年看護学援助論Ⅰ（老年期の日常生活援助）	76
老年看護学援助論Ⅱ（老年期の健康障害時の看護）	77
老年看護学援助論Ⅲ（老年期の健康障害時の援助技術（看護過程））	78
小児看護学概論（看護の対象と目的）	79
小児看護学援助論Ⅰ（小児の療養環境と看護）	80
小児看護学援助論Ⅱ（小児の主な疾患と看護）	81
小児看護学援助論Ⅲ（疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程））	82
母性看護学概論（看護の対象と目的）	83
母性看護学援助論Ⅰ（妊産褥婦・新生児の生理機能）	84
母性看護学援助論Ⅱ（妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護）	85

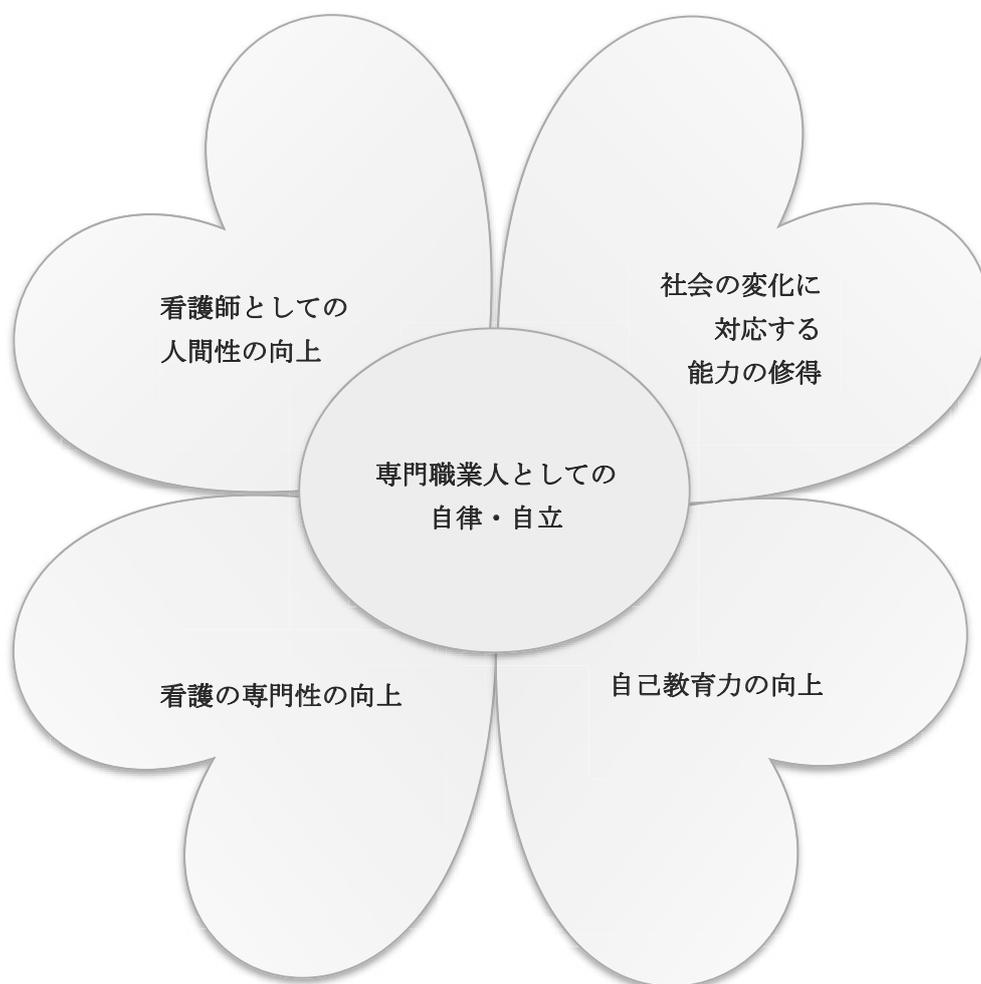
母性看護学援助論Ⅲ（妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程)）	86
精神看護学概論（看護の対象と目的）	87
精神看護学援助論Ⅰ（精神疾患の理解と治療）	88
精神看護学援助論Ⅱ（精神看護の実際とその倫理）	89
精神看護学援助論Ⅲ（精神障害のある患者の援助技術（看護過程他））	90

## 5. 統合分野

在宅看護概論（看護の対象と目的）	93
在宅看護援助論Ⅰ（在宅療養者に関連する制度と展開）	94
在宅看護援助論Ⅱ（在宅における日常生活援助技術と援助）	95
在宅看護援助論Ⅲ（在宅援助技術（看護過程））	96
医療安全	97
看護管理	98
災害・国際看護学	99
看護研究	100
統合看護演習	101

## I 教育理念

葵会グループの「“治す”と“防ぐ”を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、真摯な態度で看護を提供できる人材を育成する。



## II 教育目的・目標

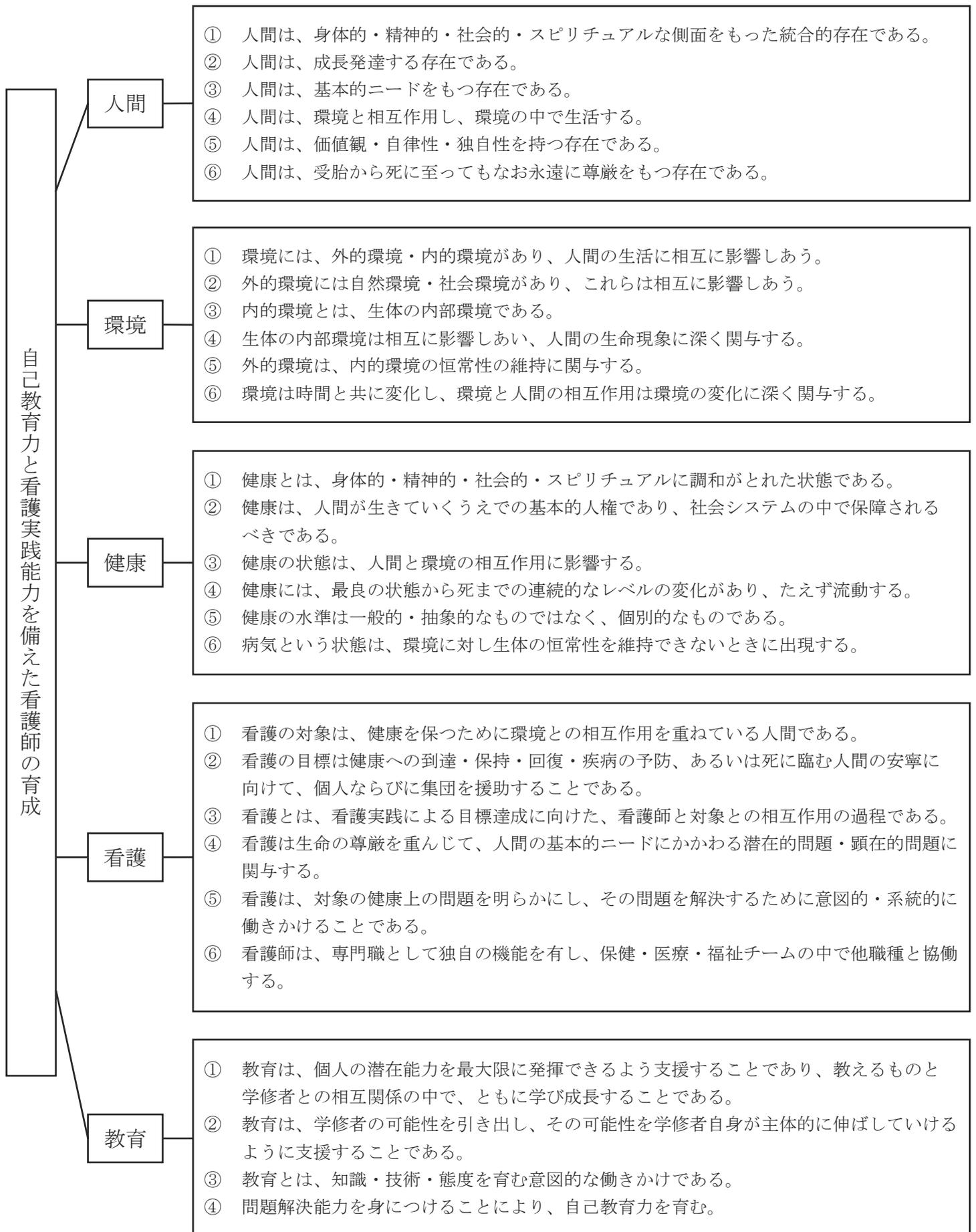
### 1. 教育目的

看護に必要な知識・技術・態度を修得し、豊かな感性と自己教育力を養い、保健医療福祉の向上と国際社会および地域社会で貢献できる有能な看護師を育成する。

### 2. 教育目標

- 1) 生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立性の高い人間を育成する。
- 2) 人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。
- 3) 看護の視座に立ち、人間の健康問題に対する判断力と実践力を養う。
- 4) 看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。
- 5) 専門職業人として生涯にわたって看護を探究し、自己教育力を養う。

### 3. 看護の主要概念



#### 4. 学年別目標

##### 1 年次

- 1) 他者に関心をもち、積極的にコミュニケーションがとれる。
- 2) 健康の概念および看護の概念が理解でき、看護に必要な基本的知識が理解できる。
- 3) 主体的な学習習慣を確立できる。
- 4) 教科外活動・集団生活を通して、協調性・自立性・人間性を養う。

##### 2 年次

- 1) 自己を理解するとともに、他者に対する配慮、気配りができる。
- 2) 対象の顕在的・潜在的健康問題を診断し、健康課題に応じた看護過程の展開ができる。
- 3) 基礎看護技術を対象の状態・状況合わせて安全・安楽に実施できる。
- 4) 問題意識をもって積極的に課題に取り組むことができる。
- 5) 看護を学ぶ者として責任ある行動がとれる。

##### 3 年次

- 1) 習得した看護技術を対象者の基本的ニーズ充足のために活用できる。
- 2) 個人の尊重を基盤に人間関係を築き、維持・発展していくことができる。
- 3) 対象者のライフサイクルや、健康レベルに応じた看護が実践できる。
- 4) 対象者の個別性に応じた看護過程が展開できる。
- 5) 保健・医療・福祉チームにおける他職種との連携・調整・協働の必要性を認識し、看護の役割と責任が理解できる。
- 6) 理論と実践の統合をはかり、自己の看護観を確立できる。
- 7) 自分自身の行動に対する評価が適切に行え、自己の課題を明確にし、主体的行動ができる。

##### 卒業時

1. 豊かな人間性を備え、思いやりをもって行動できる。
  - 1) 多様な価値観をもつ他者に関心をもち、積極的に関わろうとする姿勢がある。
  - 2) お互いに相手を大切にし、協力し助け合う姿勢がもてる。
  - 3) 人間を尊重し、すべての人と良好な人間関係を築くことができる。
2. 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。
  - 1) 自己及び他者のあらゆる生命を尊ぶ姿勢がもてる。
  - 2) 看護師として生命の尊厳を守るため、生命の安全を第一とした選択ができる。
  - 3) 看護師として対象の人権を考えた倫理的行動がとれる。
3. 地域社会や他職種に関心をもち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。
  - 1) 看護専門職として地域活動に積極的に参加し、社会的活動ができる。
  - 2) 国際社会や保健・医療・福祉の動向に関心をもち、広い視野で物事を見据えた行動ができる。
4. 自律して看護実践できる。
  - 1) 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。
  - 2) 自分の行動を適切に評価し、改善するために誠実に行動できる。
  - 3) 変化する社会に対応するために自己研鑽する姿勢がもてる。

### III 学科進捗表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	15						
		統計学	1	30		30				
		情報科学	1	30		30				
		生命倫理学	1	30				30		
		教育学	1	15		15				
		医療英語Ⅰ	1	30	30					
	人間と生活・社会の理解	医療英語Ⅱ	1	30		30				
		社会学	1	15		15				
		人間関係論	1	30		30				
		論理学	1	30		30				
		心理学	1	30	30					
		死生学	1	30					30	
		保健体育	1	30	30					
基礎分野 小計		13	345	105	180	0	30	30	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ 人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30	30					
		解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30	30					
		解剖生理学Ⅳ 神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30				
		生化学	1	15	15					
		栄養学	1	15	15					
		薬理学	1	30		30				
		病理学	1	30		30				
		微生物学	1	30	30					
		疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ 概論・皮膚・免疫	1	30	30				
	病態生理学Ⅱ 体液・血液		1	30		30				
	病態生理学Ⅲ 循環・呼吸		1	30		30				
	病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器		1	30		30				
	病態生理学Ⅴ 内分泌・代謝・生殖器		1	30		30				
	病態生理学Ⅵ 脳・神経・筋・感覚器		1	30		30				
	リハビリテーション論		1	30			30			
	健康支援と社会保険制度	総合医療論	1	15			15			
		医療経済論	1	15		15				
		看護関連法令	1	15				15		
		社会保障	1	15		15				
		公衆衛生学	1	30				30		
専門基礎分野 小計		21	540	180	270	45	45	0	0	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		看護理論	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅰ 対人関係成立の技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅴ 観察技術(ファジカルアセスメントに関する技術)	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅵ 検査・処置に関する技術	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	1	30		30				
		基礎看護学援助論演習	1	30			30			
	臨床実習	専門分野Ⅰ学内 小計	10	300	150	120	30	0	0	0
		基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90				90		
専門分野Ⅰ 臨床実習 小計		3	135	45	0	0	90	0	0	
専門分野Ⅰ 小計		13	435	195	120	30	90	0	0	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機的状態にある患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30			30			
		小計	6	180	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15		
	小計		4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1	15				15		
	小計		4	105	0	30	60	15	0	0
	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		母性看護学援助論Ⅰ 妊産婦・新生児の生理機能	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅱ 妊産婦の看護と産産期にあるハイリスクの看護	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅲ 妊産婦・新生児の援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	105	0	0	90	15	0	0
	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15		15				
		精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1	30			30			
精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実践とその倫理		1	30			30				
精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術(看護過程他)		1	15				15			
小計		4	90	0	15	60	15	0	0	
臨床実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90				90			
	成人看護学実習Ⅱ	2	90					90		
	成人看護学実習Ⅲ	2	90					90		
	老年看護学実習Ⅰ	2	90				90			
	老年看護学実習Ⅱ	2	90				90			
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90		
	母性看護学実習	2	90					90		
	精神看護学実習	2	90					90		
	専門分野Ⅱ 臨床実習 小計	16	720	0	0	0	270	450	0	
専門分野Ⅱ 小計		38	1305	0	90	360	390	450	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30			30			
		在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15			
		在宅看護援助論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30		
		在宅看護援助論Ⅲ 在宅援助技術(看護過程)	1	15					15	
		小計	4	90	0	0	45	30	15	0
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30				30		
		看護管理	1	30					30	
		災害・国際看護学	1	30					30	
		看護研究	1	30				30		
		統合看護演習	1	30				30		
小計		5	150	0	0	0	90	60	0	
臨床実習	在宅看護論実習	2	90					90		
	統合実習	2	90					90		
	統合分野 臨床実習 小計	4	180	0	0	0	0	0	180	
	統合分野 小計	13	420	0	0	45	120	75	180	
総計		98	3045	480	675	480	675	555	180	
総計		各学年総時間数		1155		1155		735		

## 教科外活動

目的：教科外活動を通して、看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む。

活 動 名	1年次	2年次	3年次	ね ら い
入学式	2時間			これからの学校生活に向けて、看護学生としての自覚と誇りを持ち、行動できるように決意を新たにする。
		2時間	2時間	看護学生の先輩として、自覚した行動の上で新入生を歓迎し、今後の後輩指導における役割を果たすことができるようにする。
卒業式	2時間	2時間		本校の全課程修了者の証書を授与し、本校の卒業生として自覚と誇りを持ち、社会人・専門職業人となっていくことの自覚を持つ。
			2時間	
誓灯式	2時間			看護の倫理について考え行動できる基盤を養う。
		4時間		ナイチンゲール像から灯を受け継ぐことで、看護師になることを決意し、自分が目指す看護師像を宣誓することにより、専門職業人として自覚を持ち行動する。
			2時間	専門職業人として自己を振り返り、看護の倫理について再認識する。
ガイダンス	8時間			学校生活の概略を理解する。 新入生としての新しい環境に適応し、学生間の親睦を深める。
		4時間	4時間	自己評価を基に振り返り、今後の課題を明確にするとともに、学習計画を立てる。
国家試験対策	10時間	20時間		自己の学力を知り、学力向上を目指す。
			30時間	多くの問題に挑戦し、国家試験の傾向と対策をつかみ、国家試験に合格する。
解剖見学	4時間			解剖生理学で学んだ知識を実際に体感し理解を深める。
教育講演	2時間	2時間	2時間	見聞を広め、豊かな感情を育て、自己成長につなげる。
接遇研修	2時間	2時間		看護学生としてふさわしい接遇を身につける。
ネットモラル研修	2時間	2時間	2時間	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できる。
親睦研修	6時間			研修に参加し、新入生間の親睦を深める。
1, 2, 3年生親睦会	6時間	6時間	3時間	1, 2, 3年生間で交流をはかり、親睦を深める。
防災訓練	4時間	4時間	4時間	防災意識を高め、災害発生時における自己の身を守るとともに、看護学生としての役割を考える。
健康診断	4時間	4時間	4時間	学校保健法に基づき、各自の健康管理と衛生管理について認識を高め、自己の健康の保持増進を目指す機会とする。
地域交流	2時間	2時間	2時間	地域の人とふれあい地域の中の一員としての自覚を育む。
あおい祭	8時間	8時間	4時間	主体的・計画的に取り組むことで協調性や責任感を養い、学生間の親睦を図る。
キャリア教育	2時間	2時間	2時間	専門職業人としての自己のキャリア形成を考える。
HR	20時間	20時間	20時間	教科外活動やクラス運営を円滑にするための時間として設定する。
合計時間	86時間	84時間	83時間	

## IV 教育課程 概要

### 1. 教育課程とは

学校の教育目的・目標を達成するために必要な教育内容を学習者の進度に合わせて組み立てた教育活動の計画を教育課程という。その内容には「教科課程」と「教科外活動」がある。

### 2. 教科課程の構成

#### 1) 学科目の位置づけ

##### 〈基礎分野〉

基礎分野は、「科学的思考の基礎」「人間と生活・社会の理解」の学びが求められている。

この分野は入学直後から学修する科目が多く、看護を学修するのに関連する内容であるとともに、看護を実践する者としての人間成長に必要な内容とした。特に看護の対象である人間理解と、サービス提供の基礎となるコミュニケーション、健康理解のために自己の心身の活用方法に重点を置く内容とした。

「科学的思考の基盤」は、論理的に推考し、科学的思考を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容、及び国際化・情報化への対応しうる能力を養えるような内容を含め、本校の教育課程では「看護物理学」「統計学」「情報科学」「生命倫理学」「教育学」「医療英語Ⅰ」「医療英語Ⅱ」の7科目を設定した。

「人間と生活・社会の理解」は、看護の実践には不可欠である人間を幅広く理解するための洞察力を養う科目、及び人間の生活・社会を理解するための科目として、本校の教育課程では、「社会学」「人間関係論」「論理学」「心理学」「死生学」「保健体育」の6科目を設定した。

##### 〈専門基礎科目〉

専門基礎分野は看護の対象である人間を生命体として捉え、その発生・構造・機能とその障害を学び、さらに社会の中で生きる人として捉えながら、人間理解と看護実践の基礎となる科目を設定した。またセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や地域における社会資源活用や関係機関などとの連携・マネジメント能力の向上につながる内容とした。

「人間の構造と機能」は、対象となる人間の構造と働きや心身に影響を与える要因について理解し、看護活動の中心となる知識を養う科目として、本校の教育課程では、「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」の4科目を設定した。

「疾病の成り立ちと回復促進」は、看護の対象である「人間」が疾病を持ち、治療を受ける存在と定義し、その疾病とは何か、生活者としての患者に与える影響を学ぶ内容とし、本校の教育課程では「生化学」「栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理学Ⅰ～Ⅵ」の11科目を設定した。

「健康支援と社会保障制度」は、看護活動を行う上で、社会との契約でもある法的根拠を学び、看護活動と社会資源などの連携を学ぶ内容とした。また疾病の危機的状態だけでなく、健康支援としての回復支援者としての看護能力を養える内容とし、本校の教育課程では、「リハビリテーション論」「総合医療論」「医療経済論」「看護関連法令」「社会保障」

「公衆衛生学」の6科目を設定した。

## 〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学は、基礎分野、専門基礎分野を学んだ上で、専門分野である各領域に共通する看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶものとして、看護の概念、サービスの本質を学び、人間を統合体として捉え、生活者として理解する。そして、科学的、論理的な思考を持って根拠に基づく看護援助について学ぶ。また看護に携わる専門職業人としての自覚や、専門領域の基礎を修得することをねらいとして位置づけた。

また、専門分野Ⅰである基礎看護学は、専門分野Ⅱや統合分野の土台であり、各看護学の基礎となる内容とした。「看護学概論」「看護理論」で看護を構成する概念および看護理論から捉える看護の役割を学ぶ。さらに、看護実践の基礎となる「基礎看護援助論Ⅰ～Ⅶ」において基礎的知識・技術・態度を修得する。特に「基礎看護援助論」は、対象の生活を整えるのに必要な技術として教授し、専門分野Ⅱ、統合分野の学修が効果的に進むように設定した。臨地実習は、観察・コミュニケーションの基本技術を用いて、日常生活行動の援助技術を学び、看護過程の展開を2年次に行う。

当校における特色として、「基礎看護学援助論演習」を専門分野Ⅰに設定した。「基礎看護学援助論演習」においては、看護技術のエビデンスに基づき、基礎的知識・技術・態度を統合し、援助を実践するための基礎的能力を修得する。

## 〈専門分野Ⅱ〉

専門分野Ⅱでは、基礎分野、専門基礎分野および各看護学に共通する看護の基礎となる「基礎看護学」の学修と関連させながら、対象に応じた健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践能力を修得し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・回復、安寧な死への援助等、様々な段階における看護実践能力を養う。

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護学実習」で成り立ち、専門職として必要な知識・技術・態度が修得できるようにする。

### (1)成人看護学

成人看護学は、ライフスタイルにおける幅広い年齢層が対象である。社会的に重要な役割を担っている。この時期の健康障害は、ライフスタイルや職業など、本人のみならず、周囲に与える影響や負担も必然的に大きくなる。成人期の特徴を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解し、健康段階のレベルに応じた看護実践の特徴を理解することをねらいとし、基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ」の6科目を設定した。

### (2)老年看護学

高齢社会における看護のニーズに対し、対象の尊厳を守り老年期特有の問題について理解し、より良い生活の継続を目指すことを目的とした。老年期では、その対象の今までの生活スタイルや今後の社会生活での目標を重視し、出来る限り対象自身で生活を維持できるように援助していくための基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「老年看護学概論」「老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

### (3)小児看護学

少子化が進む我が国において、こどもたちの健康、健やかな成長発達は大きな課題である。小児期は人間について成長するための出発点であり、この時期の過ごし方が、その後の健康生活に大きな影響を与える。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が、健全な成長・発達を遂げられるために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することも目的とした。

本校では、「小児看護概論」「小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

#### (4) 母性看護学

各領域にまたがる人の一生の中で生殖に注目した様々な活動を対象とする。リプロダクションの意義を理解し、女性のライフスタイルに応じた看護を学ぶことを目的とした。特徴的な妊娠・出産・産褥・新生児の看護を通し、生命の尊厳や親子・家族の機能への認識を深めることをねらいとした。

本校では、「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

#### (5) 精神看護学

精神看護学の対象は、全てのライフスタイルにある人々である。精神の健康を害した対象の持つ回復能力を理解し、自立への看護を学ぶことを目的とした。また、精神障害において治療における影響は大きい。薬物や治療環境など身体・精神に与える影響を理解し、対象の社会復帰を促すために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「精神看護学概論」「精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の4科目を設定した。

### 〈統合分野〉

#### (1) 在宅看護論

地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々の生活を支える看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。在宅における日常生活援助の実際、地域包括ケアの機能と専門職種の連携及び社会資源の活用について学び、療養者とその家族のQOLの向上を考慮した看護援助の理解を学修する。

#### (2) 看護の統合と実践

「看護の統合と実践」では、組織における看護師のマネジメント能力の重要性と実際について理解するとともに、災害時や国際社会の場における看護の役割の可能性について学修を充実させ、適切な判断・対応能力を強化する科目として、「医療安全論」「看護管理」「災害・国際看護学」を設定した。

「医療安全論」では、人は間違いをおかす存在であることを自覚した上でエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から『してはならないこと』『すべきこと』を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を修得する。

「看護管理」では、保健医療施設における組織的な看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響を理解する。

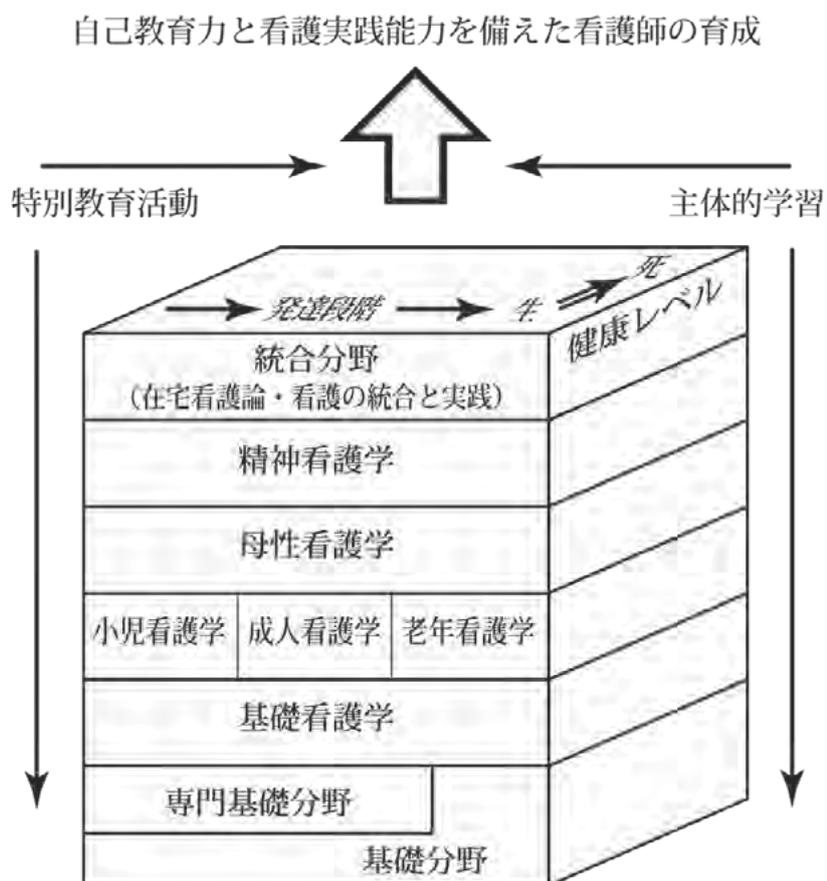
「災害・国際看護学」では、地域を守るための防災対策や看護について学び、看護師としての役割について理解する。

「看護研究」では、研究のための看護の実践ではなく、看護実践の質の向上のために研究が存在し、研究的思考を持って看護を実践することにより、対象への質の高い看護実践が提供できるよう位置づけた。

「統合看護演習」では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、複雑化する看護の現場に対応するための準備段階として、実践の場をイメージでき、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を修得する。

看護学実習は、各看護学での実習を踏まえ、3年間の総まとめの位置づけとし、看護専門職としての活動を遂行するために備えておくべき看護実践能力を修得する科目として、総合実習を設定し、看護学の学修の総まとめとする。

教育課程構造図



## 2) 学科目一覧

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい	
基礎分野	科学的思考の基盤	1	15	看護物理学	安全で適切な看護行為を実施するために、バイオメカニクスである人体の運動力学や医療機器の作動原理を学ぶ。	
		1	30	統計学	事実事象を論理的・科学的に把握・分析し、客観的に表現するための手段として保健統計学の基礎的手法や標準的手法等を理解する。看護研究に統計学が有用であることを理解し、活用法を学ぶ。	
		1	30	情報科学	情報の整理、情報の利用について正しく理解し、インフォームドコンセントや情報開示などの患者の自己決定の支援や患者の尊厳を守るという立場から、医療の進歩と同時に情報科学の進歩も医療を支えている事を理解する。情報を取り扱うものとしてのモラルについて学ぶ。	
		1	30	生命倫理学	医療や生命科学に関する倫理的、哲学的、社会的諸問題を知り、生命倫理について理解する。	
		1	15	教育学	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。	
		1	30	医療英語 I	コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通して、外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。	
		1	30	医療英語 II	基礎的な医療・看護用具を使って、臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。英語で書かれた医療・看護に関する文献を読解するための基礎を学ぶ。	
	人間と生活・社会の理解	1	15	社会学	社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また我々の生活にいかなる影響を及ぼしているのかを理解する。	
		1	30	人間関係論	保健医療における連携・協働の意義を理解し、保健・医療・福祉において人間関係が大きく影響することを理解する。人はそれぞれ価値観を有する存在であることを理解し、コミュニケーション技術や自己の人間形成が人間関係に不可欠であることを学ぶ。	
		1	30	論理学	論理的思考および言語表記について学び、思考の矛盾や妥当性を判断する能力を習得する。	
		1	30	心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己自身を良く理解する方法を学ぶ。患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。	
		1	30	死生学	社会的な背景や伝統の影響を踏まえ、生と死2面性を明確に意識し、社会の広がりや自己の内面とを考慮し、死生観を育む。また死を迎える人と取り巻く人々に対する考え方を学ぶ。	
		1	30	保健体育	健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの有能性を知り、運動・スポーツを理解する。心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。	
	専門基礎分野	人体の構造と機能	1	30	解剖生理学 I (人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・人体と細胞、生命維持システム、運動・調節システムについて学ぶ。 ・栄養の消化と吸収について学ぶ。 ・呼吸と血液のはたらきについて学ぶ。
			1	30	解剖生理学 II (血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・血液と循環とその調整について学ぶ。 ・体液の調整と尿の再生について学ぶ。 ・内臓機能の調整について学ぶ。
			1	30	解剖生理学 III (体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・からだの支持と運動について学ぶ。 ・外部環境からの防御について学ぶ。 ・生殖・発生と成長と老化の仕組みについて学ぶ。
			1	30	解剖生理学 IV (神経系・感覚器・体表から見た人体構造)	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・情報の受容と処理について学ぶ。 ・体表からみた人体の構造について学ぶ。
1		15	生化学	基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。		
1		15	栄養学	人間にとつての栄養の意義と食生活のあり方に基づき、食事療法の基礎的知識を習得する。		
1		30	薬理学	現代医療においては治療の目的で多種の医薬品が、様々な方法によって患者に投与されている。医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接的に患者に関わる看護師は薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得する必要がある。薬剤に関する知識を理解し、服薬・注射・点滴等による与薬や副作用・アレルギー等の観察など、看護師が実施する看護技術の基本について理解する。		
1		30	病理学	対象を理解しより良いケアを行うためには、病理学の知識をもつ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・徴候のメカニズムを理解する。		
1		30	微生物学	環境には、様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を習得する。		

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい		
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	1	30	病態生理学Ⅰ (概論・皮膚・免疫・体温)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・病態生理学の基礎知識を学ぶ。 ・皮膚・体温調節に関する疾患と治療について学ぶ。 ・免疫に関する疾患と治療について学ぶ。		
		1	30	病態生理学Ⅱ (体液・血液)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・体液に関する病態と治療について学ぶ。 ・血液に関する疾患の病態と治療について学ぶ。		
		1	30	病態生理学Ⅲ (循環・呼吸)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・循環器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・呼吸器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。		
		1	30	病態生理学Ⅳ (消化器・腎・泌尿器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・消化器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・泌尿器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。		
		1	30	病態生理学Ⅴ (内分泌・代謝・生殖器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・内分泌に関する疾患と治療について学ぶ。 ・代謝・生殖器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。		
		1	30	病態生理学Ⅵ (脳・神経・筋・感覚器)	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・脳・神経・筋に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・感覚器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。		
	健康支援と社会保障制度	1	30	リハビリテーション論	人間が人間としての権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学び、リハビリテーションの方法を理解する。		
		1	15	総合医療論	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命とは何か、健康とは、病気とはなど幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。		
		1	15	医療経済学	社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。		
		1	15	看護関連法令	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関する法律を理解できる。		
		1	15	社会保障	社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。		
		1	30	公衆衛生学	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健行政活動や疾病の疫学と予防について理解する。		
		専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	看護学概論	看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。さらに看護観を培うことの意義を学習する。
				1	30	看護理論	理論とは、諸現象間の関係について記述し、説明し、予測するために体系づけられた見解である。理論は、現実世界を代表する言葉や象徴から校正される。看護理論には、看護を構成する人間、環境(社会)、健康、看護の概念が含まれており、それらの概念を、看護実践の基礎的な考え方として理解した上で、看護理論を通して看護を研究的視点で実践することの必要性を理解する。
1	30			基礎看護学援助論Ⅰ (対人関係成立の技術)	1. 人間関係成立・発展のための技術を学び、患者及び家族－看護師関係について理解する。 2. ヘルスケアの指導の基礎を学び、看護における教育・指導について理解する。		
1	30			基礎看護学援助論Ⅱ (療養環境に関する技術)	1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助を習得する。 2. 感染予防の基本的知識及び、感染予防を推進する技術を習得する。		
1	30			基礎看護学援助論Ⅲ (安楽・活動と休息に関する技術)	1. ボディメカニクスの基本原理を理解し、安全・安楽な体位で効果的・効率的にケアできる基本的な方法を学ぶことができる。 2. 人間の活動(運動)・休息の意義を理解し、健康生活を送るための援助ができ、安楽な体位の援助ができる。 3. 医療安全の基本的知識について理解し、防止法について学び習得できる。		
1	30			基礎看護学援助論Ⅳ (清潔・栄養・排泄に関する技術)	1. 清潔保持に関する生理的メカニズムを理解し、対象の清潔援助時のアセスメントを行い適切な援助方法を選択し実施できる。 2. 栄養と食事のニーズ・排泄のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解し、習得する。		
1	30			基礎看護学援助論Ⅴ (観察技術 (フィジカルアセスメントに関する技術))	一般状態の観察・生命兆候としてフィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する。		
1	30			基礎看護学援助論Ⅵ (検査・与薬に関する技術)	1. 与薬(薬物療法)における法的根拠・目的・用途・方法の基礎知識・技術を理解し、与薬を受ける患者への安全かつ正確に行う援助技術を習得する。 2. 皮膚創傷を管理する知識を理解し、創傷を管理する援助ができる。 3. 検査・治療の意義及び、看護師の役割を理解できる。		

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野 I	基礎看護学	1	30	基礎看護学援助論Ⅶ (看護過程)	看護を行う上での思考過程として概要を学び、看護の対象者がもつ問題を明確にして解決していく過程を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論演習	看護の対象とする対象の疾患、症状、治療・処置を関連付け、看護技術のエビデンスに基づき、基本技術・援助技術を統合し、援助を実践するための基礎的能力を習得する。
	臨地実習	1	45	基礎看護学実習Ⅰ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。入院している患者との出会い、対象を取り巻く環境や基本的欲求を理解する。
		2	90	基礎看護学実習Ⅱ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。看護過程という看護の専門技術を使って看護を体験し、科学的な看護の意義を理解し、各看護学へと発展させていく基盤とする。
専門分野 II	成人看護学	1	30	成人看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 成人期における対象の特性を理解する。 2. 生活習慣やライフサイクルと健康問題との関連を理解する。 3. 成人の学習の特徴を活用した健康行動促進のための看護アプローチを理解する。 4. 成人看護の役割を理解する。 5. 成人看護に有用な諸理論を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅰ (生活行動に障害のある患者の看護)	1. 健康障害がもたらす役割変化と自己概念の受容を理解する。 2. セルフケア能力再獲得に向けた援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅱ (周手術期にある患者の看護)	1. 手術に伴う身体侵襲を理解する。 2. 手術に伴うボディイメージの変化を理解する。 3. 機能の障害・喪失に対する援助を理解する。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅲ (緩和ケアを必要とする患者の看護)	1. 緩和ケアにおける全人的な痛みを理解し、その援助法を学ぶ。 2. 死にゆく人の心理過程を理解する。 3. 緩和ケアにおける家族の悲嘆に伴う援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅳ (生命の危機的状態にある患者の看護)	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. 救急時の基本的技術を習得する。 4. クリティカルな場における看護の役割を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅴ (生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護)	1. 疾病をコントロールしながら生活する対象を理解する。 2. 成人の学習の特徴をふまえ、セルフマネジメントと自己効力感を高めるための援助を理解する。
	老年看護学	1	30	老年看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 老年者を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 老年者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅰ (老年期の日常生活援助)	1. 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解する。 2. 老年者の特性をふまえた援助方法を理解する。 3. 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅱ (老年期の健康障害時の看護)	1. 老年者に特有な健康障害を理解する。 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する。
		1	15	老年看護学援助論Ⅲ (老年期の健康障害時の援助技術・看護過程)	1. 事例を基に健康障害をもつ健康問題を理解する。 2. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	小児看護学	1	30	小児看護学概論 (看護の対象と目的)	1. 小児の成長発達と発達課題を理解する。 2. 小児のヘルスプロモーションと看護を理解する。 3. 小児を取り巻く社会状況と動向を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅰ (小児の療養環境と看護)	1. 健康障害や療育環境が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 2. 小児の成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅱ (小児の主な疾患と看護)	1. 小児に出現しやすい健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術を習得する。
		1	15	小児看護学援助論Ⅲ 疾病・障害を持つ小児と家族の援助技術(看護過程)	1. 小児の成長発達・健康問題に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 3. 事例を基に健康障害をもつ小児の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	母性看護学	1	30	母性看護学概論 (看護の対象と目的)	女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識と技術を習得し、次世代の健全育成を目指す看護について理解する。
		1	30	母性看護学援助論Ⅰ (妊娠・分娩・新生児の生理機能)	妊産婦のマトニティサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴及び、新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい	
専門分野Ⅱ	母性看護学	1	30	母性看護学援助論Ⅱ (妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護)	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象が順調に経過をたどるための看護師の役割・援助方法について基礎知識を学び、異常の早期発見・健康回復のための援助を理解する。また、正常経過にある母子をウェルネスの視点で捉え、よりよい状態に向かえるよう知識を活用する。	
		1	15	母性看護学援助論Ⅲ (妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程))	事例の展開を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。	
	精神看護学	1	15	精神看護学概論 (看護の対象と目的)	1. ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2. 社会の価値規範やしぐみが心の健康に及ぼす影響を理解する。 3. 精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。	
		1	30	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の理解と治療)	1. 主な精神障害とその症状を理解する。 2. こころの健康障害を持つ対象の苦悩と援助を理解する。 3. こころの健康障害のある対象の権利擁護の現状と課題を理解する。	
		1	30	精神看護学援助論Ⅱ (精神看護の実際とその倫理)	1. ノーマライゼーションと精神科リハビリテーションの現状を理解する。 2. こころの健康障害を持つ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。	
		1	15	精神看護学援助論Ⅲ (精神障害のある患者の援助技術・看護過程)	1. ロールプレイングを通して治療的人間関係の成立と発展過程を理解する。 2. プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3. 事例を基にこころの健康障害をもつ対象の看護過程を展開する基礎的能力を養う。	
	臨地実習	2	90	成人看護学実習Ⅰ	慢性の経過をたどる患者への看護を通してセルフコントロールを促すための看護を学修する。患者が疾患や障害を受容していく過程における患者理解と支援、健康障害を持ちながら生涯にわたり、疾患をコントロールし、社会生活を送るための患者や家族への指導方法を学修する。	
		2	90	成人看護学実習Ⅱ	手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を実践し、回復に向けての患者と家族への看護を患者と家族への看護を学修する。	
		2	90	成人看護学実習Ⅲ	健康の急激な破綻状況にある対象あるいはターミナル期にあり、生命の危機状態にある対象と家族への看護を学修する。	
		2	90	老年看護学実習Ⅰ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。自立した高齢者を対象として、健康を維持してその人らしく生活していくための看護を学修する。	
		2	90	老年看護学実習Ⅱ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。健康障害や治療のため自立した生活を送ることが困難である高齢者を対象とし、セルフケア能力を高めることを目的とした残存機能を踏まえた看護を学修する。	
		2	90	小児看護学実習 (保育所実習30時間を含む)	子供の成長・発達を促すための看護を学修する。保育所や医療福祉施設で生活している子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達を観察し、看護の役割を学修する。さらに健康障害が子どもの発達に与える影響を踏まえ、健康回復・健康保持増進への看護を学修する。健康障害をもつ母親・父親への理解と支援について学修する。	
		2	90	母性看護学実習	周産期にある母子およびその家族の特性を理解し、母子の健康と親子関係の促進を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。その方法として、母性看護の対象の健康問題をアセスメントし、正常経過にある母子をウェルネスの視点でとらえ、よりよい状態に向かうための看護を習得する。	
		2	90	精神看護学実習	こころの健康障害をもつあらゆる発達段階の人を対象として、こころの状態をコントロールしながら生活するための看護を学修する。	
	統合分野	在宅看護論	1	30	在宅看護概論 (看護の対象と目的)	在宅介護の歴史や社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族の特性を理解し、在宅における看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。
			1	15	在宅看護援助論Ⅰ (在宅療養者に関連する制度と展開)	在宅ケアシステムにおける看護の役割と在宅看護における多職種との連携・協働の在り方、展開における各制度を学習する。
			1	30	在宅看護援助論Ⅱ (在宅における日常生活援助技術と実際)	在宅療養者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本看護技術・特殊な看護技術を学習する。
			1	15	在宅看護援助論Ⅲ (在宅援助技術・看護過程)	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する。一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、計画を学ぶ。また、事例を通して対象別の在宅看護過程の展開方法を学ぶ。
		看護の統合と実践	1	30	医療安全論	人間は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から「してはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。
			1	30	看護管理	保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響について理解する。
1			30	災害・国際看護学	1. 地域を守るための防災対策や救護・看護について学び、看護師としての役割を理解する。 2. 災害や世界の保健医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性と役割について理解する。	
1			30	看護研究	1. 研究の意義と方法を理解する。 2. 看護活動と研究の関連について理解し、看護研究の基礎を学ぶ。	
1			30	統合看護演習	これまでに学んだ知識・技術を統合し、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を養う。	
臨地実習			2	90	在宅看護論実習	あらゆる発達段階にあり、性別、領域を問わないものとし、在宅で療養する対象とその家族への看護を学修する。訪問看護活動や地域における保健活動を知ることにより、地域社会で充実ある生活ができるための基礎的な看護実践能力を養う。
	2	90	統合実習	今まで学んだ知識・技術・態度をもとに看護実践能力を高めることを目指す。複数の患者を複数の学生で受け持ち、看護上の問題の優先性を考えたうえでの看護体験する。看護管理の実際を知ることで、看護チーム及び医療チームにおける看護師の役割を学修する。		

# 基礎分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の 基盤	看護物理学	1	15	1 学年前期	山本 峻三
授業目標	安全で適切な看護行為を実施するために、力のつり合いや熱の移動など物理学の基礎知識を得るとともに、それが看護の現場でどのように生かされているかを学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	力学の基礎  (移動動作や体位変換に必要な力学)					
2	物体の安定・不安定、力のつり合いの応用					
3	力学の人体への適用					
4	熱と物質 (熱と温度)					
5	熱の移動と体温調節の仕組み					
6	圧力の基礎知識と血圧測定の原理					
7	溶液の濃度と浸透圧の基礎知識  (医療処置に必要な浸透圧の知識)					
8	終講試験 まとめ					
評価方法	講義終了後の試験 70%  レポート及び小テスト 30%					
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 著：平田雅子 学研メディカル秀潤社					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の 基盤	統計学	1	30	1 学年後期	毎熊 隆誉
授業目標	日常生活や医療現場で遭遇する様々な数字は、読む者の捉え方によって異なった解釈を生む。本講義では、多くの集まった数値・データ群の真意を科学的に把握・分析出来るようになるために、基本的な統計学の考え方や統計解析の手法を学ぶ。それにより医療に必要な臨床情報や論文データを解釈し、臨床的な判断や看護研究に統計学を活用できるようになることを最終目標とする。					
授 業 計 画						備考
1	日常生活や医療現場で遭遇する数値・データ					
2	見た目は同じでも意味の異なる数値・データ(統計データの種類)					
3	統計とは何か(記述統計と推測統計、母集団と標本)					
4	たくさんの数値・データを一言で表す(代表値・散布度・要約統計量)					
5	数値・データを一目で分かるように表す(ヒストグラムと箱ひげ図)					
6	数値・データの動きを読み解く(散布図・相関・回帰)					
7	異なる数値・データ群のバラツキや分布に注目する(正規分布、標準化)					
8	物事の起こる確率に注目する(標準正規分布)					
9	一部の数値・データから真の事実を推測する その1(95%信頼区間、Z推定、中心極限定理)					
10	一部の数値・データから真の事実を推測する その2(t推定、母比率の推定)					
11	異なる数値・データ群は同じか、違うか その1(検定とは)					
12	異なる数値・データ群は同じか、違うか その2(一標本の検定)					
13	異なる数値・データ群は同じか、違うか その3(二標本の検定)					
14	統計解析の注意点、統計学の利用の実際、まとめ					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験の結果を100%とする。					
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 統計学 著：高木晴良 医学書院					
参考図書	医療・看護のためのやさしい統計学「基礎編」 著：山田覚 東京図書株式会社					
履修上の 注意点	講義中に課された確認問題にしっかり取り組んだうえで講義に臨んでください。 講義には平方根( $\sqrt{\quad}$ )の計算ができる電卓を持参して下さい。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野	科学的思考の 基盤	情報科学	1	30	1 学年後期	井上 信次
授業目標	情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識を身に付けるとともに、パソコンの実習を通して、インターネットを利用した情報収集、文書作成、表計算、プレゼンテーションの代表的なアプリケーション(MS Word, MS Excel, MS Powerpoint)の基本操作の習得を目指す。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	情報化社会のモラルとセキュリティ 個人情報の適切な取扱い					
2	デジタル時代の著作権 タイピングの練習					
3	MS Word について 基本的な文書の作成					
4	図や表の挿入 文書の印刷					
5	表現力をアップする機能 ビジネス文書の書き方					
6	文書作成の練習問題					
7	MS Excel について データの入力 表の作成					
8	表の編集・印刷 グラフの作成					
9	データベースの操作					
10	複数シート 表計算の練習問題					
11	MS Powerpoint について プレゼンテーションの作成 オブジェクトの挿入					
12	プレゼンテーションの構成 特殊効果の設定 プレゼンテーションの印刷					
13	プレゼンテーションの練習問題 文書作成、表計算の練習問題					
14	文書作成、表計算の演習問題					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	授業に取り組む姿勢(20%)、小課題(20%)および終講試験によって総合的に評価を行う。終講試験で6割以上の点を取ることを単位認定の条件とする。					
テキスト	『情報リテラシー入門編 情報モラル&情報セキュリティ』 著・出版：FOM出版					
参考図書	なし					
履修上の 注意点	講義の進歩、理解度により、講義内容を変更する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の基盤	生命倫理学	1	30	2 学年後期	栗屋 剛 于 麗玲 土井 英子
<b>授業目標</b>	患者の自己決定権の保障を含めて患者の人権擁護は医療現場での重要な課題である。本講義は受講生に、患者の人権擁護の問題、広く生命倫理の問題について看護専門職としての確かな判断ができる基礎的能力を養ってもらうことを目的とする。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>担当</b>
1	ガイダンス 生命倫理・医療倫理・倫理とは何か					于
2	人間論					
3	生殖医療をめぐる法と倫理					
4	優生学をめぐる法と倫理					
5	脳死・臓器移植をめぐる倫理的、法的、社会的問題					栗屋
6	死生論					
7	安楽死・尊厳死論					
8	看護行為の法的責任と倫理的責任					土井
9	患者の自己決定権とインフォームド・コンセント					
10	看護アドボカシー					
11	チーム医療と看護倫理					
12	看護職者の倫理的感受性と対処行動					
13	看護職者の倫理的感受性と対処行動 事例検討					
14	看護職者の倫理的感受性と対処行動 事例検討					
15	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	栗屋(終講試験 20%) 土井・于麗玲(終講試験 30%、レポート 50%)					
<b>テキスト</b>	◇生命倫理学/医療と法 講義スライドノート第3版 著：栗屋剛 ふくろう出版 ◇看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 編：小西恵美子 南江堂					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の 注意点</b>	遅刻、私語、スマートフォンは厳禁。授業出席と日常の学修が重要である。道徳や倫理に関心を持ち、身の回りの人との価値観の相違や葛藤が生じた時や何かおかしいと思った時には事例として書き留めておくこと。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の基盤	教育学	1	15	1 学年後期	福田 昌准
授業目標	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。					
授 業 計 画						備考
1	教育学の概要 社会の中の看護と教育 教育とは何かー「教育」の概念					
2	教育の対象ー子ども観と発達 社会変動と教育 教育の組織化ー学校					
3	教授ー人を教えるということ 訓育ー他者とのかかわりを導く 養護ー教育の受け手を見まもる 発達ー教育を受けて成長する					
4	学びの場ー学校と家庭 教育の目標と評価 問題演習（1）					
5	教育のメディアー教育をデザインする 教育の担い手ー専門性と専門職性 教育の場をつくるしくみ					
6	キャリア教育(専門教育) ジェンダーとセクシュアリティ					
7	特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 生涯学習 シティズンシップ教育 問題演習（2）					
8	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%で評価する。					
テキスト	系統看護講座 基礎分野 教育学 編集：木村元 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の基盤	医療英語 I	1	30	1 学年前期	富永 始実
授業目標	<p>基礎的な医療・看護用語を使って臨床現場で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	Course Orientation and Introductions					
2	Unit One - Please speak more slowly					
3	English Activity #1 and Unit One Review					
4	Unit Two - Where are you from?					
5	English Activity #2 and Unit Two Review					
6	Unit Three - Could you tell me your address?					
7	Unit Three Review and Mid Term Test					
8	Unit Four - What department do you want to visit?					
9	English Activity #4 and Unit Four Review					
10	Unit Five - Where is the X-ray department?					
11	English Activity #5 and Unit Five Review					
12	Unit Six - What are your symptoms?					
13	English Activity # 6 and Unit Six Review					
14	Unit 1 to 6 Review					
15	Final Test					
評価方法	Mid-term Test 50% Final Test 50%					
テキスト	クリスティーンのやさしい英会話 著：知念クリスティーン，上瀧真紀恵 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点	授業・学習時には英和・和英辞典を使用する事。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の基盤	医療英語Ⅱ	1	30	1 学年後期	伊野家伸一
授業目標	<p>基礎的な医療・看護用語を使って臨床現場で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	オリエンテーション・導入的演習					
2	Unit Seven - Where does it hurt?					
3	English Activity #7 and Unit Seven Review					
4	Unit Eight - Have you had any serious injuries?					
5	English Activity #8 and Unit Eight Review					
6	Unit Nine - Take one tablet, four times a day.					
7	Unit Nine Review and Mid Term Test					
8	Unit Ten - Let me make an appointment for your test?					
9	English Activity #10 and Unit Ten Review					
10	Unit Eleven - Your surgery will be tomorrow at 9am.					
11	English Activity #11 and Unit Eleven Review					
12	Unit Twelve - How are you feeling today?					
13	English Activity #12 and Unit Twelve Review					
14	Unit 7 to 12 Review					
15	Final Test					
評価方法	Mid-term Test 50% Final Test 50%					
テキスト	クリスティーンのやさしい英会話 著：知念クリスティーン，上瀧真紀恵 医学書院					
参考図書						
履修上の注意	上記スケジュールを基本としますが、プラスアルファの教材を適宜加えたいと思います。状況によりスケジュールの変更もあり得ます。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間と生活・ 社会の理解	社会学	1	15	1 学年後期	井上 信次
授業目標	<p>社会学は、社会のしくみや人間関係について探究する学問である。そして、社会的な関係が個人の振る舞いに与える影響について考える。社会学の基礎的な概念や理論について理解を深め、現代社会における人間関係の諸相を多角的にとらえる視点を学ぶ。</p> <p>社会は、人間と人間の関わりから成り立ち、一人ひとりの人間に還元できないかたちで現れる。一方、一人ひとりの人間は、そうした人間と人間の関わりの中かで社会的な存在となっていく。社会学の概念や理論について概説するとともに、身近に観察できる日常的な現象から社会問題まで幅広く取り上げ、人びとの相互行為や社会の変化について考察する。</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	社会学とは何か					
2	社会変動					
3	家族と現代社会					
4	性差・性別（ジェンダー）と現代社会					
5	逸脱と現代社会					
6	医療と現代社会					
7	障害と現代社会					
8	終講試験 まとめ					
評価方法	<p>授業に取り組む姿勢(5%)、小課題(35%) および終講試験(60%)によって総合的に評価を行う。終講試験で6割以上の点を取ることを単位認定の条件とする。</p>					
テキスト	指定しない。随時、関連する資料を配布する。					
参考図書	友枝 敏雄 他編, 2017, 『社会学の力—最重要概念・命題集』有斐閣					
履修上の 注意点	受験生の関心、講義の進捗により、講義内容を変更する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間と生活・ 社会の理解	人間関係論	1	30	1 学年後期	平松 悦子
授業目標	<p>1. 保健医療における人間関係の意味について考え、互いの価値観を尊重しながら相互が納得できる合意を形成していくためのプロセスを学ぶ。</p> <p>2. 臨床場面や社会生活における具体的な場面を通して、生じている現象を正しく理解し、他者との関係を構築していくスキルを学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	人間としての社会相互関係性とコミュニケーションが引き起こす問題					
2	対話的關係を築くためのガイドラインについて					
3	コミュニケーションとは・・・コミュニケーションの様々な方法					
4	行動変容を引き起こすコミュニケーションについて 具体的な効果と問題について					
5	人間関係に関する研究について					
6	カウンセリングに関する理論の紹介と方法					
7	人間関係の持ち方—具体的なスキル					
8	どのようにして他者とコミュニケーションをとるか 保健医療におけるチームワークの意義・関係性の持ち方と看護師の役割					
9	患者・家族と保健医療従事者					
10	患者との相互関係の構築とケア 感情労働としての看護 闘病を支える人間関係 患者・家族が医療従事者に求めるもの					
11	家族関係論と看護師の関わり					
12	家族関係のありかたと疾病の回復への影響 家族が危機を乗り越えるための援助					
13	ソーシャルサポートをめぐる人間関係 ノーマライゼーションを育む人間関係					
14	(自分を知ること、援助することの意味、エンパワメントを発揮する関係づくり、 セルフグループの意義と広がり)					
15	終講試験					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院					
参考図書	◇動機づけ面接を身につける 一人でもできるエクササイズ集 著：デイビット・B. ローゼン レン 星和出版 2013 ◇折れない心の作り方 著：齋藤孝 文芸春秋 2011					
履修上の 注意点	講義資料は授業ごとに配布 PP 使用 授業の前にプロジェクターの準備をお願いします。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間と生活・ 社会の理解	論理学	1	30	1 学年前期	小林 正文
授業目標	① 自己表現や発表の場に於いて、論理的な考え方を基調として、矛盾や妥当性を整理する力を養う ② 実際の社会において撞着しない表現力を培う。 ③ 報告書や看護記録など、記述に関する基本的な要点を習得する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	講師自己紹介。日本の学校制度と専修学校の意義について 論理学とは。論理学の時代的変遷について。《『論』と『理』の意味など》					
2	論理的な考え方や、意思表示について。(時代的背景から、なぜ論理学が必要となったのか)					
3	「メモ」と「レポート」の違いについて。(メモは備忘録であり、レポートは第三者が理解出来なければならない。)					
4	発表(プレゼンなど)や文章表現についての組み立て方について。(現状・課題・原因・解決策などの順にまとめる。)					
5	①マスコミ等で報じられる内容を題材とし、話す・書くなどの技法をもって、その記事の内容を第三者に筋道を立てて的確に伝えるトレーニングをする。 (論点の把握)					
6	②同上					
7	①人前で話す能力、即ち自己表現力を養う。(自分の経験や、自分の思いを題材とし発表する。)>>>ビブリオバトル					
8	②同上(敬語類、謙譲語・尊敬語・丁寧語・美化語などの文言構成) ビブリオバトル(10分/人)					
9	③同上 ビブリオバトル(10分/人)					
10	④同上 ビブリオバトル(10分/人)					
11	著作権法(昭和45年制定・平成30年一部改訂)について。(考え方や思いなどを文章や絵や音楽などで表した著作物。例えば、小説・絵画・音楽・論文など)					
12	報告書を作成する上で、留意しなければならない点について。					
13	あるテーマを基に、小論文及びレポートを作成する。					
14	同上					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	筆記試験 50 点。提出物 30 点。小テスト 10 点。学習の姿勢 10 点					
テキスト	無し、(但し、必要に応じ資料を配布)					
参考図書	無し					
履修上の 注意点	常に他の中の自分であることを意識し、他(相手方)に誤解や不信を抱かせないように配慮した言動を心がけるようにする。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間と生活・ 社会の理解	心理学	1	30	1 学年前期	北川 歳昭
授業目標	全人的医療に関わる立場から、人間の心理や行動の基礎にある原理を理解するとともに、患者や家族、そして自分自身の心のケアの方法を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	第1章 心理学とは ①心理学とは ②対人援助と心理学 ③心理学の研究法					
2	第2章 感覚と知覚 ①間隔・知覚とは ②感覚のしくみとはたらき ③知覚のしくみとはたらき					
3	第3章 記憶 ①記憶のメカニズム ②感覚・短期記憶と作業記憶 ③長期記憶と忘却					
4	第4章 思考・言語・知能 ①思考とは ②言語とコミュニケーション ③知能とは					
5	第5章 学習 ①学習とは ②古典的条件づけ ③オペラント条件づけ ④社会的学習					
6	第6章 感情と動機づけ（1） ①感情の諸相 ②感情のメカニズム					
7	第6章 感情と動機づけ（2） ①動機づけ ②動機づけの理論					
8	第7章 性格とパーソナリティ（1） ①性格とは ②性格の理論					
9	第7章 性格とパーソナリティ（2） ①性格の測定 ②性格の自己診断					
10	第8章 社会と集団 ①社会的認知 ②態度と説得力コミュニケーション ③対人関係と対人魅力 ④集団とリーダーシップ					
11	第9章 発達 ①発達とは ②乳幼児の発達 ③児童・青年の発達 ④成人・高齢者の発達					
12	第10章 心理臨床（1） ①心の適応と不適応 ②ストレスとその対処 ③さまざまな心の問題					
13	第10章 心理臨床（2） ①心理療法とカウンセリング ②カウンセリングマインド・傾聴技法 ③さまざまな心理療法					
14	第11章 医療・看護と心理 ①医療職と対人援助 ②患者の心理 ③医療・看護職の心のケア					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験の成績（60%）及び課題レポート（40%）をもって評価する。					
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学 著：辰野千寿 医学書院					
参考図書	講義中に資料を配布する。					
履修上の 注意点	用語の説明ができるように予習・復習をしっかりとってください。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間の生活・ 社会の理解	死生学	1	30	3 学年後期	稲村 秀一
授業目標	<p>生物的生命の限界である「死」は必ずやってくる。この死をいかに受容（理解）するか。この死に向かって、いかに「生きる」かが問われなければならない。この「生と死」の関係を巡って、東西の哲学・宗教思想史ではどのように考えられてきたのかを検討する。医療の現場で、死にゆく人に立ち会う看護者には自らの死生観が問われるが、そのための準備に役立つことを目指す。</p>					
授 業 計 画						備考
1	序論 ——(1)死生学とは、死生学を学ぶ意義 (2)確かな生物的死とその受容					
2	第1章 現代社会と死の現象 (1)死の忘却へと誘惑する現代 (2)「生の中に死が在り、死のなかに生がある」					
3	第2章 死と「いのち」の多様な現象 (1)<円熟としての死>と<不慮の死> (2)生物的死を超えて生き続ける<人格のいのち>					
4	第3章 人間における「生」と「死」の意味 —人間存在の五次元の「生と死」について—					
5	第4章 死生観と宗教 —宗教・倫理からみた死生観— (1)仏教、(2)キリスト教、(3)儒教					
6	第5章 日本人の死生観 (1)死生観の歴史的変化					
7	(2)現代日本における死の問題					
8	第6章 西洋思想史における人間観と死生観 (1)近世思想における死生観					
9	(2)現代実存思想における死生観 ①キルケゴール『死に至る病』の死生観					
10	②ハイデッガーとサルトルの死生観					
11	第7章 最近の死生観の諸問題 (1) キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』、養老孟司『死の壁』について					
12	(2) 岸本英夫『死をみつめる心』、日野原重明『死をどう生きたか』、 (3) 柏木哲夫『死に行く人々のケア』について					
13	(4) トルストイ『生命について』について					
14	第8章 祝福される死 —われわれの死生観についての<まとめ>—					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	授業の理解をレポート（30%）・終講試験（70%）で総合評価する					
テキスト	必要時資料を配付する					
参考図書	『医療・介護のための死生学入門』清水哲郎・会田薫子（編）、東京大学出版会 その他、授業中に指示する。					
履修上の 注意点	「死と生」について問題意識を持って真摯に授業を聴き、理解し各自の考えを明確にすること					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間と生活・ 社会の理解	保健体育	1	30	1 学年前期	岸 弥生
授業目標	<p>運動・スポーツ・レクリエーションを通して、自身の健康状態を知り、健康の維持・増進を図ると共に学生間のコミュニケーション、仲間づくりをする。 看護又は介護の現場でレクリエーションの支援ができることを目指す。</p>					
授 業 計 画						備考
1	オリエンテーション・アイスブレイク					
2	身近な物を使って遊んでみよう ① (新聞紙・風船・ボール等)					
3	身近な物を使って遊んでみよう ② (新聞紙・風船・ボール等)					
4	タオルを使ってエアロビクス					
5	椅子に座って行う体操					
6	ポスター作製					
7	球技 他①					
8	ストレッチ体操① (肩こり体操・腰痛体操)					
9	伝承遊び					
10	ストレッチ体操② (マッサージ)					
11	球技 他②					
12	レクリエーションゲーム					
13	グループ発表準備					
14	グループ発表					
15	終講試験(レポート) まとめ					
評価方法	授業態度 50% グループ発表・終講試験 50%					
テキスト						
参考図書						
履修上の 注意点						

# 專門基礎分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I 人体構造・生理学・ 栄養と吸収・呼吸と血液	1	30	1 学年前期	内藤 一郎		
授業目標	<p>解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域である。解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について、習得する。</p> <p>この講義では、人体の構成要素である細胞と組織、体の各部を表わる用語、消化と吸収および呼吸と血液について学ぶ。学んだことを医療現場の同僚はもちろん、患者様にも適切に説明できることを目標とする。</p>							
授 業 計 画						備考		
1	I. 人体の構造と機能：a. 体表の構造、b. 人体の区分、c. 部位と区分、							
2							d. 腔所・方向用語、e. 人体の階層性、f. 細胞の構造	
3							g. 組織の種類と機能、h. 器官系	
4							i. 体液とホメオスタシス	
5	II. 消化器系：a. 口腔・咽頭・食道、b. 消化管の構成							
6							c. 胃、d. 小腸と大腸、	
7							e. 栄養素の消化吸收、f. 肝臓と胆嚢・胆管、	
8							g. 膵臓、h. 腹膜	
9	III. 呼吸器系：a. 鼻腔・咽頭・喉頭、b. 気管と気管支、c. 肺							
10							d. 胸膜・縦隔、e. 呼吸運動、f. 内呼吸・外呼吸	
11							g. 呼吸気量、h. ガス交換と運搬、i. 肺の血液循環、j. 呼吸運動の調節	
12	IV. 血液：a. 組成と機能、b. 赤血球・白血球・血小板							
13							c. 血漿タンパク質、d. 赤血球沈降速度	
14							e. 凝固と綿維素溶解、f. 血液型	
15	終講試験 まとめ							
評価方法	終講試験の結果を100%として評価する。 (毎回、授業の初めに小テストを実施する)							
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄[ほか] 医学書院							
参考図書	解剖トレーニングノート 著：竹内 修二 医学教育出版							
履修上の 注意点								

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅱ 血液と循環の調整・ 体液調整・ 内臓機能の調整	1	30	1 学年前期	田口 勇仁
授業目標	<p>解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について、習得する。</p> <p>血液と循環とその調整、体液の調整と尿の生成および内臓機能の調整について学ぶ</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	心臓の構造					
2	心臓の拍出機能					
3	末梢循環器系の構造					
4	血液の循環の調節					
5	リンパとリンパ管					
6	DVD と心臓の模型を使い演習					
7	腎臓，排尿器					
8	体液の調節					
9	DVD と人体模型を使い演習					
10	自律神経による調節					
11	内分泌系による調節					
12	全身の内分泌線と内分泌細胞					
13	ホルモン分泌の調節					
14	ホルモンによる調節の実際					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅲ 体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30	1 学年前期	井上 三枝子
授業目標	解剖生理学は、患者の病態を理解しアセスメントするための基礎知識であり、看護技術・看護援助の根拠になる。 人体の構造と機能を理解することで専門職として必要な知識を修得する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	第7章 身体の支持と運動 ・骨格の構造と理解					
2	・骨の連結（関節）					
3	・骨格筋の構造と機能					
4	・体幹の骨格と筋					
5	・上肢の骨格と筋					
6	・下肢の骨格と筋					
7	・頭頸部の骨格と筋					
8	・筋の収縮（アクチンフィラメント・ミオシンフィラメント）					
9	第9章 生体の防御機構 ・非特異的防御機構（皮膚・粘膜・サイトカイン） ・特異的防御機構（液性免疫・細胞性免疫）					
10	・生体防御の関連臓器（リンパ腺・扁桃・胸腺・脾臓）					
11	第10章 生殖器 ・男性生殖器の構造と機能					
12	・女性生殖器の構造と機能					
13	・月経周期 ・胎児循環					
14	第10章 成長と老化 ・小児と高齢者					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄[ほか] 医学書院 ◇新版 からだの地図帳 監：佐藤達夫 講談社					
参考図書						
履修上の注意						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅳ 神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30	1 学年後期	井上 三枝子
授業目標	<p>解剖生理学は、患者の病態を理解しアセスメントするための基礎知識であり、看護技術・看護援助の根拠になる。</p> <p>人体の構造と機能を理解することで専門職として必要な知識を修得する。</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	第8章 情報の受容と処理 ・神経系の構造と機能 (ニューロンの構造と機能)					
2	・中枢神経と末梢神経の構造					
3	・脊髄の構造と機能 (体性神経と自律神経)					
4	・脊髄の構造と機能					
5	・脳の構造と機能 (脳幹)					
6	・脳の構造と機能 (小脳・間脳・大脳)					
7	・脳の構造と機能 (大脳基底核)					
8	・脳の構造と機能 (脳脊髄液)					
9	・脊髄神経と脳神経の構造と機能					
10	・脳の高次機能 (脳波・睡眠・記憶・本能行動・情動行動)					
11	・運動機能と下行伝導路 (錐体路・錐体外路)					
12	・感覚機能と上行伝導路 (視覚伝導路)					
13	・感覚器 (眼・耳・味覚)					
14	・痛みの発生機序 (疼痛)					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 著：坂井建雄[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の注意						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	1	15	1 学年前期	富永 敏弘
<b>授業目標</b>	基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	生化学を学ぶための基礎知識、代謝の基礎と酵素・補酵素					
2	糖質の構造、機能、代謝					
3	脂質の構造、機能、代謝					
4	タンパク質の構造、機能、代謝。ポルフィリンと異物の代謝					
5	遺伝子と核酸、遺伝子の複製・修復・組換え					
6	転写、翻訳と翻訳後修飾					
7	細胞のシグナル伝達とがん					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験(80%)と小テスト(20%)により評価する					
<b>テキスト</b>	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 著：畠山鎮次[ほか] 医学書院					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の 注意点</b>						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養学	1	15	1 学年前期	末丸 克矢
<b>授業目標</b>	傷病者に対して健康状態や栄養状態をよりよい状態へ改善し、疾病の予防・治療・増悪化予防を行いQOL向上に努める援助を行うための食に対しての知識を身につけ看護援助における指導に活かすことができる					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	栄養評価と栄養ケアプラン、栄養サポートチーム					
2	3 大栄養素の働き					
3	生活習慣病（肥満・脂質異常症・痛風）と栄養					
4	消化器疾患（胃潰瘍・肝炎・腸疾患）と栄養					
5	糖尿病・膵炎と栄養					
6	高血圧症・慢性腎臓病と栄養					
7	術前・術後の栄養					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	期末試験（100%）と平常点により評価する					
<b>テキスト</b>	◇系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 著：小野章史[ほか] 医学書院					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の注意</b>						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	薬理学	1	30	1 学年後期	五味田 裕
授業目標	<p>現代医療においては治療の目的で多種の薬が、様々な応用方法によって患者に投与されている。医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接に患者に関わる看護師は、薬の薬理作用や体内動態、副作用毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得しておく必要がある。</p> <p>種々の薬剤に関する知識を理解すると共に、臨床における服薬・注射・点滴等による薬物投与や副作用・アレルギー等の観察など看護師が実施する看護技術の基本について学習する。</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	薬理学の基礎知識：薬物治療の概要を学ぶ。 ①薬理学とは ②薬物作用の仕組み ③体内における薬物の吸収・分布・代謝・排泄等					
2	薬理学の基礎知識 ④受容体における薬物作用 ⑤薬物相互作用 ⑥薬物作用の有益性と危険性 ⑦薬と法律等					
3	末梢神経系作用薬 ①自律神経の概要 ②交感神経系に作用する薬					
4	末梢神経系作用薬 ③副交感神経系に作用する薬 ④局所麻酔薬 ⑤運動神経系に関する薬等					
5	中枢神経系作用薬 ①全身麻酔薬 ②催眠薬 ③抗てんかん薬 ④パーキンソン病治療薬					
6	中枢神経系作用薬 ⑤麻酔性鎮痛剤 ⑥抗精神病薬 ⑦抗不安薬 ⑧抗うつ薬 ⑨中枢神経興奮薬					
7	①オータコイド ②免疫治療薬 ③アレルギー治療薬					
8	循環器系作用薬 ①心臓血管系作用薬					
9	循環器系作用薬 ②血液造血器系作用薬					
10	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬					
11	生殖器系作用薬、物質代謝作用薬					
12	抗感染症薬①：抗菌薬の作用機序と副作用					
13	抗感染症薬②：代表的な抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬、駆虫薬					
14	抗悪性腫瘍薬、生物学的製剤、消毒薬等					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	成績評価は終講試験（100%）によるが、受講態度を加味する。					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 著：吉岡充弘[ほか] 医学書院					
参考図書	◇パワーアップ問題演習 薬理学 著：鈴木正彦 サイオ出版 ◇臨床場面でわかる！くすりの知識 監：五味田裕 南江堂					
履修上の注意	授業中にプリントを配布し、テキストとプリントを中心に授業を展開する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	病理学	1	30	1 学年後期	赤木 忠厚
授業目標	細胞障害・炎症・免疫異常・循環障害・代謝異常・腫瘍などの総論的観点から、病気の原因、成り立ち、経過について解説し、次いで臓器・系統別に、主要な疾患の発症機構、病態生理を中心に概説する。解剖学、生理学で学んだ人体の正常構造・機能を適宜復習しながら、その病的変化について学習する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	医療における病理学の役割、内因と外因、先天異常と遺伝性疾患					
2	変性、壊死、萎縮、肥大、再生と修復					
3	糖質代謝・脂質代謝・タンパク質代謝・核酸代謝の異常、生活習慣病					
4	うっ血、出血、虚血と梗塞、側副循環、ショック、浮腫					
5	炎症の定義・メカニズム・種類、免疫とアレルギー、感染症と病原体					
6	腫瘍の定義と分類、発生病理、転移と進行度、がんの疫学					
7	先天性心疾患、虚血性心疾患、炎症性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、血管の疾患、高血圧症					
8	上気道感染症、肺炎、肺結核、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、塵肺症、肺がん					
9	口腔・唾液腺疾患、食道疾患、胃・腸の炎症性疾患・腫瘍性疾患					
10	脂肪肝、肝炎、アルコール性肝障害、肝がん、黄疸の病理、胆嚢炎、胆石症、胆道がん、膵炎、膵がん					
11	腎の炎症（糸球体腎炎、腎盂腎炎）と腫瘍、尿路の炎症・結石・腫瘍、子宮・卵巣の腫瘍、精巣の腫瘍、乳腺の腫瘍					
12	内分泌系の特徴と異常、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵島の疾患					
13	中枢神経の外傷、循環障害、炎症、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍					
14	血液疾患（貧血、増殖性疾患、白血病）、リンパ節の病変（炎症、反応性病変、腫瘍）、脾腫の原因、骨・関節の疾患、末梢神経・筋肉の疾患					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	随時小テストを行い、小テストの点数を 30 点、終講試験の成績を 70 点として、合計したもので評価する。ただし、再試験・再々試験では小テストの点数は考慮しない。					
テキスト	◇新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学 編：深山正久 メヂカルフレンド社					
参考図書	カラーで学べる病理学 編：渡辺照男 ヌーヴェルヒロカワ					
履修上の注意	教科書にそって講義を行うが、教科書に書かれていない内容も多く含まれるので、授業中に出来るだけ理解するように努めること。 講義はパワーポイントを使用して行い、講義内容はプリントして資料を配布する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	人体の構造と機能	微生物学	1	30	1 学年前期	守谷 智恵
授業目標	環境には様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を修得する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	微生物の概要、細菌の性質					
2	真菌・原虫の性質					
3	感染と発症					
4	感染に対する生体防御機構					
5	感染源・感染経路					
6	感染症の予防（滅菌、消毒、予防接種）					
7	感染症の検査と診断					
8	感染症の現状と対策					
9	細菌感染症 1					
10	細菌感染症 2					
11	真菌、寄生虫感染症					
12	ウイルスの特徴と分類					
13	ウイルス感染症					
14	感染症の治療					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	小テスト、レポートなど平常点 30% 終講試験 70%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 著：南嶋洋一〔ほか〕 医学書院					
参考図書						
履修上の注意						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学 I 概論・皮膚・免疫・体温	1	30	1 学年前期	内藤 一郎
授業目標	<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。病態生理の基礎知識、皮膚・体温調節に関する疾患の病態と治療、免疫に関する疾患の病態と治療について学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	病態生理学を学ぶための基礎知識 ① 正常と病気の状態					
2	② 循環障害 ③ 変性					
3	④ 炎症 ⑤ 感染症 ⑥ 腫瘍					
4	⑦ 先天性異常と遺伝子異常					
5	⑧ 変形・圧迫による障害 ⑨ 老化と死					
6	皮膚・体温調節のしくみとその異常 ① 皮膚の構造と機能					
7	② 皮膚構造の正常性の破綻					
8	③ 体温調節のしくみとその異常					
9	免疫による防御のしくみとその異常 ①リンパ球による免疫応答のしくみ					
10	② 自己寛容と自己免疫のしくみ					
11	② 免疫による防御が弱まっている場合					
12	③ アレルギー反応					
13	④ 自己寛容の異常					
14	⑤ 自己免疫疾患					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験の結果を100%として評価する。 (毎回、授業の初めにミニテストを実施する)					
テキスト	<p>◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 著：佐藤博子 [ほか] 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 著：岩田健太郎 [ほか] 医学書院</p>					
参考図書	イメージできる病態生理学 ナーシングサプリー編集委員会編 メディカ出版					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅱ 体液・血液	1	30	1 学年後期	井上 三枝子
授業目標	<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療・看護を学習する。</p> <p>体液に関する病態と治療と血液に関する疾患の病態と治療看護について学ぶ。</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	体液①：体液・電解質					
2	体液②：酸塩基平衡					
3	体液③：国家試験問題演習①(体液・酸塩基平衡)					
4	血液①：血液の正常性を保つしくみ					
5	血液②：血液の正常性の破綻					
6	血液③：検査・診断と症候・病態生理（その1）					
7	血液④：検査・診断と症候・病態生理（その2）					
8	血液⑤：赤血球系の異常・白血球系の異常					
9	血液⑥：造血器腫瘍 1（造血器腫瘍の概論）					
10	血液⑦：造血器腫瘍 2（急性白血病 等）					
11	血液⑧：造血器腫瘍 3（慢性白血病 等）					
12	血液⑨：造血器腫瘍 4（悪性リンパ腫、骨髄腫 等）					
13	血液⑩：出血性疾患					
14	血液⑪：国家試験問題演習②（血液）					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験（100％）で評価を行う					
テキスト	<p>◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院</p> <p>◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著：飯野京子[ほか] 医学書院</p>					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅲ 循環・呼吸	1	30	1 学年後期	田口 勇仁
授業目標	<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。</p> <p>循環器・呼吸器に関する疾患の病態と治療を学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	循環器のしくみとその異常 ① 循環器の正常性を保つしくみ                      ② 循環器の正常性の破綻					
2	虚血性心疾患      心不全					
3	不整脈、弁膜症					
4	心膜炎、心筋疾患					
5	先天性心疾患					
6	動脈系疾患・静脈系疾患					
7	リンパ系疾患・血圧異常					
8	呼吸のしくみとその異常 ① 呼吸器の機能の正常性を保つしくみ					
9	② 呼吸器の機能の正常性の破綻 ・感染症                      ・間質性肺疾患					
10	気道疾患・肺血栓塞栓症					
11	呼吸不全・肺腫瘍					
12	呼吸調節に関する疾患					
13	肺・肺血管の形状異常					
14	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患・肺移植・胸部外科疾患→総復習					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著:田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著:浅野浩一郎[ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著:吉田俊子[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅳ 消化器・腎・泌尿器	1	30	1 学年後期	内藤 一郎
授業目標	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。消化器系および泌尿器系疾患の病態と治療について学ぶ。					
授 業 計 画						備考
1	消化・吸収のしくみとその異常 ① 消化管の機能					
2	② 消化管の異常					
3	1) 咀嚼・嚥下機能、胃のはたらきと異常 2) 消化・吸収機能の障害と腸管機能の障害					
4	③ 肝臓の機能 1) 肝臓、2) 胆道系、3) 門脈					
5	④ 肝臓の機能の異常 1) 肝細胞・小葉の異常、2) 代謝機能の異常					
6	3) 胆汁産生・胆道の異常					
7	⑤ 膵臓の機能と異常 1) 膵臓の機能、2) 膵臓の異常					
8	⑥ 腹腔・腹膜・腸間膜の機能とその異常 1) 腹膜のしくみ、2) 腹膜・腹水					
9	腎・泌尿器のはたらきとその異常 ① 腎機能、② 尿排泄のしくみ					
10	③ 腎機能の異常					
11	1) 尿材料の供給不足、2) 濾過機能の異常、3) 尿再吸収機能の異常、					
12	4) 腎間質の障害 5) 全身性疾患に伴う障害、6) 腎不全、遺伝性腎症					
13	④ 尿をたくわえ排泄するしくみの異常					
14	⑤ 腎・尿路系の悪性腫瘍					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験の結果を100%として評価する。 (毎回、授業の初めに小テストを実施する)					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 著：松田明子[ほか] 医学書院 ◇系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：大東貴志[ほか] 医学書院					
参考図書	◇イメージできる病態生理学 ナーシングサプリー編集委員会編 メディカ出版					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅴ 内分泌・代謝・生殖器	1	30	1 学年後期	村田 幸治
授業目標	<p>身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法の概要について学習する。</p> <p>内分泌・代謝や生殖器に関する疾患の病態と検査・治療について学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	内分泌・代謝①：内分泌機能のしくみとその異常（1） 代謝機能のしくみとその異常（1）					1)
2	内分泌・代謝②：内分泌機能のしくみとその異常（2） 代謝機能のしくみとその異常（2）					1)
3	内分泌・代謝③：症状とその病態生理（1）					2)
4	内分泌・代謝④：症状とその病態生理（2）					2)
5	内分泌・代謝⑤：内分泌疾患の検査と治療					2)
6	内分泌・代謝⑥：代謝疾患の検査と治療					2)
7	内分泌・代謝⑦：国家試験問題演習（1）：内分泌・代謝					
8	生殖器①：女性生殖器の機能とその異常 男性生殖器の機能とその異常					1)
9	生殖器②：女性生殖器 症状とその病態生理					3)
10	生殖器③：女性生殖器 診察と検査・治療（1）					3)
11	生殖器④：女性生殖器 診察と検査・治療（2）					3)
12	生殖器⑤：男性生殖器 症状とその病態生理					4)
13	生殖器⑥：男性生殖器 診察と検査・治療					4)
14	生殖器⑦：国家試験問題演習（2）：生殖器					
15	終講試験					
評価方法	終講試験 100%で評価を行う。					
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 著：田中越郎 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 著：黒江ゆり子[ほか] 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 著：末岡浩[ほか] 医学書院 4) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：大東貴志[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の注意	毎回の授業の最後にレポートを書いて提出すること。授業の終了時のレポートの提出により、授業への出席とみなす。備考欄に使用するテキストの番号を示す。					



領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	リハビリテーション論	1	30	2 学年前期	谷 康登志
授業目標	リハビリテーションの概念と意義を学びチーム医療での役割が理解できる					
授 業 計 画						備考
1	リハビリテーションの理念と視点					
2	リハビリテーションの歴史					
3	リハビリテーションの目標と評価①					
4	リハビリテーションの目標と評価②					
5	リハビリテーションの目標と評価③					
6	関節可動域の評価、測定法					実習室
7	ボディメカニズムについて <肢位・基本動作>					実習室
8	ボディメカニズムについて <ADL>					実習室
9	関節可動域の評価、小テスト					実習室
10	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護 <評価、視点、実技>①					実習室
11	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護 <評価、視点、実技>②					実習室
12	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護 <評価、視点、実技>③					実習室
13	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護 <評価、視点、実技>④					実習室
14	リハビリテーション総論					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 (90%) 小テスト (10%)					
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 著：武田宣子[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	総合医療論	1	15	2 学年前期	赤木 忠厚
<b>授業目標</b>	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命・健康・病気とは何かなど、幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	医療コミュニケーションの原点にさかのぼる 医療と看護の原点－病と癒し					
2	医療の歩みと医療観の変遷					
3	私たちの生活と健康①（A～D）					
4	私たちの生活と健康②（E， F） 科学技術の進歩と現代医療の最前線					
5	現代医療の新たな課題①					
6	現代医療の新たな課題②					
7	医療を見つめ直す新しい視点 保健・医療・福祉の潮流					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験（100％）で評価を行う。					
<b>テキスト</b>	◇系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 総合医療論 著：小泉俊三[ほか] 医学書院					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の 注意点</b>	講義はパワーポイントを使用して行い、講義内容はプリントして資料を配布する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	医療経済論	1	15	1 学年後期	大崎 泰正 浜田 淳
<b>授業目標</b>	経済学の基礎と概要を理解し、社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	経済学の基本原理。市場と価格の働き					大崎
2	経済をはかる「ものさし」。経済の「波」と「流れ」。 お金と経済					
3	日本経済の世界とのつながり。日本経済の問題。					
4	患者にとって望ましい医療・介護サービスとは何だろうか？					浜田
5	日本の医療と現状の課題					
6	日本の人口・財政とこれからの医療・介護					
7	医療・介護の費用とサービスの管理					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	【大崎】 終講試験 100% 【浜田】 同上					
<b>テキスト</b>	【大崎】 使用しない。資料を配布する 【浜田】 資料を配布する					
<b>参考図書</b>	【大崎】 ◇マンキュー入門経済学 著：N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 【浜田】 ◇はじめての社会保障 著：椋野美智子・田中耕太郎 有斐閣					
<b>履修上の 注意点</b>						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	看護関連法令	1	15	2 学年後期	小河達之
授業目標	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。					
授 業 計 画						備考
1	法の概念					
2	衛生法 厚生行政のしくみ					
3	看護法（保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の促進に関する法） 医事法（医療法等）					
4	患者や家族に関連する法律や社会保障					
5	保健衛生法 ① 共通保健法 ② 分野別保健法 ③ 感染症に関する法 ④ 食品に関する法 薬務法 ① 医薬品 ② 毒物等					
6	環境衛生法 ① 営業 ② 環境整備 社会保険法 ① 費用保障 ② 年金・手当					
7	福祉法 ① 福祉の基盤 ② 児童分野 ③ 高齢分野 ④ 障害分野 労働法と社会基盤整備 ① 労働法 ② 社会基盤整備等 ① 環境法・環境保全の基本法 ② 公害防止法 ③ 自然保護法					
8	終講試験					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関連法令 著：森山幹夫 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	社会保障	1	15	1 学年後期	中田 雅章
授業目標	<p>社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象者の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。</p>					
授 業 計 画						備考
1	<p>社会保障と社会福祉とは</p> <p>① 社会保障の考え方</p> <p>② 欧米における社会福祉の発達</p> <p>③ 日本における社会福祉の発達</p>					
2	<p>社会福祉制度</p> <p>① 母子福祉の現状</p> <p>② 児童福祉の現状政策</p> <p>③ 障害者福祉の現状</p>					
3	<p>④ 高齢者福祉の現状</p> <p>⑤ 医療福祉の現状と課題</p>					
4	<p>医療保障と介護保障</p> <p>①医療保険制度</p>					
5	<p>②介護保険制度</p>					
6	<p>年金保障と公的扶助</p> <p>① 年金制度</p>					
7	<p>② 生活保護制度</p>					
8	<p>終講試験</p>					
評価方法	<p>終講試験 100%</p>					
テキスト	<p>◇系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 著：福田素生[ほか] 医学書院</p>					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	30	2 学年後期	末丸 克矢
<b>授業目標</b>	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	公衆衛生と国際保健 (WHO)					
2	産業保健 (労働衛生) と災害保険					
3	水系感染と食品衛生					
4	環境衛生					
5	感染症の分類と対策 (感染症法)					
6	感染症と予防接種					
7	E B M と疫学					
8	人口統計と保健統計					
9	疾病統計と精神保健					
10	母子統計と母子保健					
11	学校保健と難病対策					
12	癌保健と緩和ケア					
13	成人保健と生活習慣病					
14	老人保健					
15	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	期末試験 (100%) と平常点により評価する					
<b>テキスト</b>	◇系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 著: 神馬征峰 [ほか] 医学書院					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の 注意点</b>						

# 専門分野 I

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1	30	1 学年前期	荒木 美津子
<b>授業目標</b>	1. 看護を提供するために必要な基本的概念「人間」「看護」「健康」「環境」を理解できる。 2. 看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを説明できる。 3. 看護観を培い、看護師の役割等、自己の考えをまとめ、説明できる。					
<b>授 業 計 画</b>						
1	授業ガイダンス、1. 看護の本質 ①看護とは ②看護の変遷と看護の定義					
2	2. 看護の役割と機能 ①看護の役割と機能 ②看護の継続と情報共有					
3	3. 看護の対象の理解 ①人間の心と体 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」					
4	ヘンダーソンの 14 項目からみた人間の欲求					
5	②生涯発達し続ける存在					
6	③人間の暮らしの理解 家族・集団・地域					
7	4. 国民の健康・生活の全体像の把握 ①健康のとらえ方 ②国民のライフサイクルと健康生活					
8	5. 健康状態と看護のとらえ方: 1)看護過程・看護診断 ゴードンの健康パターン 2)看護実践過程					
9	3)看護実践と記録の意義					
10	6. 看護の提供者 ①職業としての看護 ②看護職の資格と養成					
11	③看護職者の就業状況と継続教育					
12	7. 看護の提供の仕組み ①サービスとしての看護 ②看護サービスの提供の場 ③看護をめぐる制度と政策					
13	④看護サービスの管理 リーダーシップとフォロワー ⑤看護サービスの実施 ⑥医療安全と医療の質の保証					
14	8. 看護の活動領域 ①国際化と看護 ②災害時における看護					
15	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	・「看護の基本となるもの」著：V・ヘンダーソン レポート 10 点 ・「キラリ看護」著：川島みどり レポート 10 点 ・「看護覚え書」著：F・ナイチンゲール要約, レポート 10 点 ・発達段階・健康観等レポート 10 点 ・筆記試験 60 点 総合して評価する。					
<b>テキスト</b>	・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 ・F・ナイチンゲール 訳：湯楨ます, 看護覚え書き, 現代社 ・ヴァージニア・ヘンダーソン訳湯楨ます:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版 ・川島みどり:キラリ看護, 医学書院 ・看護者の基本的債務 監修：手島恵 日本看護協会出版社					
<b>参考図書</b>	・ナイチンゲール著作集、看護論：ヴァージニア・ヘンダーソン等					
<b>履修上の注意</b>	予習：授業時に指示する課題を済ませてから授業参加すること。 復習：講義内容を復習し、ノートを整理しておくこと。 レポートに関しては、提出日を厳守し、早めに文献を読み課題に取り組むこと。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 I	基礎看護学	看護理論	1	30 時間	1 学年後期	
授業目標	1. 看護理論を学ぶことの意味を説明できる。 2. 看護理論とは何か、構成要素や用語の定義を理解できる。 3. 看護理論の変遷と主要な理論について理解できる。 4. 看護理論の実践への活用について理解できる。					
	<b>授 業 計 画</b>					
1	看護理論の概要 : 看護理論とは ①理論の目的・理論の基本的特徴 ②看護理論の意義					
2	看護理論の概要 : 看護理論の構成要素と種類					
3	主要理論の理解(1) : ヒルデガード・E・ペプロウの理論					
4	主要理論の理解(2) : アイダ・ジーン・オーランドの理論					
5	主要理論の理解(3) : アーネスティン・ウィーデンバックの理論					演習
6	主要理論の理解(4) : マーサ E・ロジャーズの理論					
7	主要理論の理解(5) : ドロセア・E・オレムの理論					
8	主要理論の理解(6) : アイモジン・M・キングの理論					
9	主要理論の理解(7) : ジョイス・トラベルビーの理論					演習
10	主要理論の理解(8) : マーガレット・ニューマンの理論					
12	主要理論の理解(9) : シスター・カリスタ・ロイの理論					
13	主要理論の理解(10) : ジーン・ワトソンの理論					
14	主要理論の理解(11) : パトリシア・ベナーの理論					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 50%・レポート 40%・その他 10%(ポートフォリオなど)					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学①, 茂野香おる他, 医学書院</li> <li>・誰でもわかる看護理論, 城ヶ端初子, サイオ出版</li> </ul>					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 黒田裕子著, 日総研</li> <li>・看護理論-看護理論 20 の理解と実践への応用-, 筒井真優美, 南山堂</li> <li>その他講義中に紹介する。</li> </ul>					
履修上の注意	看護を支える基盤となるものが看護理論で、看護実践の背景には理論による裏づけが必要です。いくつかの理論をともに解釈し、看護の本質にじっくり触れる機会になればよいと思います。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論 I 対人関係成立の技術	1	30	1 学年前期	光岡 英香
<b>授業目標</b>	1. 人間関係成立の、発展的で効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を学ぶ。					
<b>授 業 計 画</b>						
<b>1</b>	看護技術を学ぶにあたって ① 技術とはなにか ② 看護技術の特徴 ③ 看護技術の範囲 ④ 看護技術を適切に実践するための要素					
<b>2</b>	コミュニケーションとは ① コミュニケーションの定義・意義と目的 ② コミュニケーションの構成要素と成立過程					
<b>3</b>	コミュニケーションの構成要素と成立過程					
<b>4</b>	コミュニケーション場面のふりかえり：プロセスレコード①					
<b>5</b>	コミュニケーション場面のふりかえり：プロセスレコード②					
<b>6</b>	関係構築のためのコミュニケーションの基本 ① 接近性コミュニケーションの原理 ② 接近的行動と非接近的行動					
<b>7</b>	アサーティブなコミュニケーションとは					
<b>8</b>	傾聴の技術とカウンセリング					
<b>9</b>	各看護場面における効果的なコミュニケーションの技術 ① コミュニケーションの技法					
<b>10</b>	② 情報収集の技術（問診、面接）					
	③ 説明の技術					
<b>11</b>	カンファレンスにおけるコミュニケーション					
<b>12</b>	意識障害がある人への対応 BLS 講習（日本赤十字社：ベーシックライフサポーター認定）					
<b>13</b>						
<b>14</b>						
<b>15</b>	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	終講試験 80%・レポート 20%					
<b>テキスト</b>	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院 ・人間関係づくりトレーニング 著：星野欣生 金子書房					
<b>参考図書</b>	・考える基礎看護技術 I 編：坪井良子, 松田たみ子 ヌーベルヒロカワ					
<b>履修上の注意</b>	ロールプレイングを行い、コミュニケーションの重要性、自己の特徴を理解していきます。コミュニケーションスキルをアップし、話し上手・聴き上手を目指します。DVD 使用					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者		
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論Ⅱ 療養環境に関する技術	1	30	1年生前期	木嶋 茂子 井上 順子		
授業目標	1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 感染予防の基本的知識および、感染予防を推進する技術を習得する。							
授 業 計 画						担当	備考	
1	1. 療養生活の環境 1) 環境の意義 2) 環境を整える技術 (1) 快適さ (2) 病室の環境 (3) 病室を整える (4) 環境のアセスメント					木嶋	講義	
2	2. 療養環境の実際 ・病院、ベッド周囲の環境							
3	3. 療養環境を整える援助の実際 ・ベッドメイキング (クローズドベッド) ・リネンのたたみ方							
4	援助の実際 ・シーツ交換						井上	演習
5	援助の実際 ・臥床患者のシーツ交換							
6	援助の実際 ・環境整備							
7								
8	援助の実際 ・技術試験 (シーツ交換)							
9								
10	4. 感染防止の技術 1) 感染予防の基礎知識 (1) 感染成立の条件 (2) 感染を予防するためのプロセス (3) 院内感染の防止 2) 感染性廃棄物の取り扱い					井上	講義	
11	3) スタンダードプリコーション ・標準予防策の基礎知識							
12	4) 感染経路別予防策 5) 洗浄・消毒・滅菌 6) 無菌操作 (1) 無菌操作の基礎知識							
13	5. 対策の実際 ・衛生的手洗い ・个人防护用具 ・無菌操作						演習	
14								
15	終講試験 まとめ							
評価方法	終講試験 80% ・レポート 20%							
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子 [ほか] 医学書院							
参考図書	・基礎・臨床看護技術 第2版 編著：任和子他 医学書院							
履修上の 注意点	演習前の事前学習は確実にを行うこと。							

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者	
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論Ⅲ 安楽・活動と休息に 関する技術	1	30	1 年生前期	高山 典子	
授業目標	1. 人間にとっての活動の意義を理解し、体位の安全・安楽な援助技術を習得する。 2. 休息の意義を理解し、安楽な援助技術を習得する。 3. 医療安全の基本的知識を理解し、安全・安楽な移送・移動方法を習得する。						
授 業 計 画						担当	備考
1	1. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 (1) よい姿勢 (2) ADL (3) ボディメカニクス					高山	講義
2	2) 体位 (1) 基本体位 (2) 特殊体位						
3	3) 体位変換 ・援助の基礎知識						
4	援助の実際 体位変換						演習
5	援助の実際 体位変換						
6	4) 移動 ・援助の基礎知識						講義
7	援助の実際 杖歩行						演習
8	援助の実際 移乗・移送 車椅子 ストレッチャー						
9	2. 睡眠 休息とは 1) 睡眠の基礎知識 休息の援助						講義
10	3. 苦痛の緩和・安楽確保技術 1) 体位保持（ポジショニング）の基礎知識						
11	2) 罨法の基礎知識						
12	苦痛の体験						演習
13	援助の実際 ポジショニング						
14	援助の実際 ポジショニング						
15	終講試験 まとめ						
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子 [ほか] 医学書院						
参考図書	・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 編著：任和子他 医学書院						
履修上の 注意点							

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者		
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論Ⅳ 清潔・栄養・排泄に 関する技術	1	30	1 学年前期	中山 一美 湯浅 由加里 川内 麻己子		
授業目標	1. 人間の基本的欲求である清潔・衣生活について理解し、充足するための基本的知識・技術を習得する。 2. 栄養と食事、排泄のニーズを充足するための基本的知識・技術を習得する。							
授 業 計 画						担当	備考	
1	1. 食事援助の基礎知識 1) 食事介助・口腔ケアの援助					中山	講義	
2	2) 食事介助・口腔ケアの実際						演習	
3								
4	2. 清潔・衣生活の基礎知識 1) 清潔の援助					湯浅	講義	
5	入浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴							
6	2) 衣生活の援助							
7	3) 全身清拭・寝衣交換の実際						演習	
8								
9	4) 手浴・足浴の実際						演習	
10	5) 洗髪の実際						演習	
11								
12	3. 排泄援助の基礎知識 1) 排泄の援助方法						川内	講義
13	2) 排泄援助の実際 (1) 床上排泄援助 (尿器・便器) (2) 陰部洗浄 (3) おむつ交換							演習
14								
15	終講試験・まとめ							
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%							
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子[ほか]医学書院							
参考図書	・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 編著：任和子他 医学書院							
履修上の 注意点	演習では事前学習の根拠と留意点を理解して臨むこと。							

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者	
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論 V 観察技術 (フィジカルアセスメントに関する技術)	1	30 時間	1 学年後期	川内 麻己子	
授業目標	1. ヘルスアセスメントの意義目的を理解することができる。 2. 心理的アセスメント、社会的アセスメント、バイタルサイン及び系統的フィジカルアセスメントの実際について学ぶ。 3. バイタルサイン、計測、フィジカルアセスメントの技術を身につけることができる。						
授 業 計 画						担当	備考
1	ヘルスアセスメントとは		1)ヘルスアセスメントの意義と目的		川内	講義	
2	健康歴とセルフケア能力のアセスメント						
3	全体の概要	1)全身状態の把握	2)心理・社会状態のアセスメント				
4	バイタルサインの観察とアセスメント		1)バイタルサインとは 2)基礎知識と測定法				
5	バイタルサイン：健康歴、全身状態					演習	
6	バイタルサイン：体温・脈拍・呼吸・血圧						
7							
8	計測：身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲						
9	フィジカルアセスメント		1)フィジカルアセスメントの目的・基礎知識			講義	
10	系統別フィジカルアセスメント 1)呼吸系 2)循環器系 3)乳房・腋窩 4)腹部 5)筋・骨格系 6)神経系 7)頭頸部 8)感覚器						
11	フィジカルアセスメント：呼吸器					演習	
12	フィジカルアセスメント：循環器						
13	フィジカルアセスメント：乳房・腋窩、腹部						
14	フィジカルアセスメント：神経系 ほか						
15	終講試験 まとめ					講義	
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院						
参考図書	・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 編著：任和子他 医学書院 ・看護がみえる vol13 フィジカルアセスメント第1版 株式会社メディックメディア						
履修上の注意	技術習得のためには体験を通して感覚的に理解しながら「身につける」学習となるようにしましょう。そのため、繰り返し技術練習を行い、より正確に観察できるための自己学習をしてください。						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者				
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論Ⅵ 検査・与薬に関する技術	1	30	1 学年後期	木嶋 茂子 湯浅 有加里				
授業目標	1. 与薬における看護師の役割を学び、与薬の基礎知識・援助方法を理解し、与薬の援助技術を習得する。 2. 皮膚損傷を管理する知識を理解し、創傷技術の実際を学ぶ。 3. 診察・検査・処置時の看護師の役割を学び、処置・検査の援助を学ぶ。									
授 業 計 画						担当	備考			
1	1. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 3) 褥瘡予防						湯浅	講義		
2	2. 症状・生体機能管理技術 1) 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2) 検体検査(静脈血採血を除く) 3) 生体情報のモニタリング									
3	3. 診察・検査・処置の介助技術 1) 診察の介助 2) 生体検査 3) 穿刺の介助									
4	4. 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識						木嶋	講義		
5	2) 経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬									
6	3) 注射の基礎知識 バイアルの吸い上げ・注射の実施方法 (皮下)									
7	4) 注射の実施方法の実際								演習	
8	バイアルの吸い上げ・皮下注射									
9	5) 注射の基礎知識								講義	
10	アンプルの吸い上げ・注射の実施方法 (皮内・筋肉)・輸血管理									
11	6) 生体検査・注射の実施法の実際									
12	①静脈血採血 ②静脈内注射(ワンショット、点滴静脈内注射) ③中心静脈カテーテル ④輸液ポンプ、シリンジポンプ								演習	
13	7) 検体検査の援助の実際・点滴のつなぎ方									
14	①静脈血採血、②点滴セットのプライミング、滴下調節 ③側管注ピギーバック法 ④三方活栓の取り扱い									
15	終講試験 まとめ									
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%									
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 著：有田清子[ほか] 医学書院									
参考図書	・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 編著：任和子 医学書院 ・看護技術DVD学習支援シリーズ 安全で確かな与薬① 編：高屋尚子 インターメディカ ・看護技術DVD学習支援シリーズ 安全で確かな与薬② 編：高屋尚子 インターメディカ ・看護学学習辞典(第3版) 監修：大橋優美子[ほか] 学研メディカル秀潤社									
履修上の注意	演習では事前学習の根拠と留意点を理解して臨むこと。									

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論Ⅶ 看護過程	2	30	1年後期	畑島 由美子
<b>授業目標</b>	1. 看護過程の基本的な考えが理解できる。 2. 対象がもつ看護問題を明確にし、問題を解決していくプロセスを習得する。 3. 事例を用いて「看護過程」を展開することができる。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	看護過程の構成要素と基盤となる考え方					講義
2	看護過程と看護理論	ヘンダーソン	ゴードン	看護過程の各段階		
3	看護過程の各段階	アセスメント (情報収集と解釈・分析)		アセスメントの統合 関連図		
4	看護過程の各段階	看護診断(看護問題の明確化)				
5	看護過程の各段階	看護計画	実施			
6	看護過程の各段階	看護実践の評価・要約	看護記録について			
7	小テスト 15分	事例演習のオリエンテーション				演習
8	事例展開演習①	アセスメント (情報収集 解釈・分析)				
9	事例展開演習②	アセスメントの統合		関連図		
10	事例展開演習③	看護診断				
11	事例展開演習④	看護計画				
12	事例展開演習⑤	実施	看護経過記録			
13	事例展開演習⑥	評価	看護要約			
14	事例展開演習⑦	ワーク				
15	事例展開演習⑧	まとめ				
<b>評価方法</b>	小テスト (30%) 課題提出状況 (10%) 事例展開レポート (60%)					
<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著：有田清子 [ほか] 医学書院</li> <li>・ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 編：江川隆子 スーヴェルヒロカワ</li> <li>・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 [第4版] 著：秋葉公子[他] スーヴェルヒロカワ</li> <li>・基準看護計画 第2版 編：矢田昭子 [ほか] 照林社</li> <li>・NANDA - I 看護診断 - 定義と分類 2018-2020 原書第11版 原書編：T.ヘザー・ハードマン, 上鶴重美 医学書院</li> </ul>					
<b>参考図書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社</li> <li>・疾患別看護過程の展開 監修：山口瑞穂子 関口恵子 学研メディカル秀潤社</li> </ul>					
<b>履修上の 注意点</b>	看護を実践していくうえで軸となる思考過程です。1回1回の授業を大切にして、課題に取り組んでください。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者	
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学援助論演習	1	30	2 学年前期	岩崎 仁美 兵頭 陽子 木嶋 茂子	
授業目標	1. 看護を必要とする対象の疾患、症状、治療、処置を関連づけ、看護技術のエビデンスに基づき、援助を実践するための基礎的能力を習得する。						
授 業 計 画						担当 備考	
1	排泄困難を訴える患者の援助 1) 間欠的導尿 2) 持続的導尿 (膀胱留置カテーテル)					岩崎	講義
2	援助の実際 導尿						演習
3	排泄困難を訴える患者の援助 3) 摘便 4) 浣腸						講義
4	援助の実際 浣腸						演習
5	排泄困難を訴える患者の看護 5) ストーマ						講義
6	呼吸困難を訴える患者の看護 1) 酸素吸入療法 (カニューラ・マスク・中央配管式・酸素ボンベ使用)					木嶋	講義
7	呼吸困難を訴える患者の看護 2) 人工呼吸器を装着した患者の看護						
8	吸引を必要とする患者の看護 吸引 (モデル人形・口腔内・鼻腔内・気管内) 吸入 (ドライパウダー吸入・加圧式定量噴霧吸入・ネブライザー使用)						
9	呼吸循環を整える技術演習 (メイン演習) 1) 口腔・鼻腔からの吸引 2) 気管切開部からの吸引						
10	(サブ演習) 1) カニューレ・酸素マスクの酸素吸入 2) 酸素ボンベ 3) 超音波ネブライザー吸入						
11	嚥下困難を訴える患者の看護 1) 経鼻経管栄養法 2) 経瘻管栄養法 3) 非経口栄養法					兵頭	講義
12	モデル人形を使用しての経鼻経管栄養法						演習
13	経鼻カテーテル挿入・固定・抜去方法の実際						
14	中心静脈栄養法 末梢循環促進ケア						講義
15	終講試験 まとめ						
評価方法	終講試験 100%						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 著:有田清子 [ほか] 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 著:有田清子 [ほか] 医学書院						
参考図書	・看護技術プラクティス [第3版 動画付き] 監修:竹尾恵子 学研						
履修上の 注意点	根拠を考えながら演習をイメージして、授業に取り組みましょう						

# 専門分野Ⅱ

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30	1 学年後期	小河 育恵
授業目標	1. 成人各期の人々の身体的、心理的、社会的な特徴を述べることができる。 2. 成人看護学用いる理論・モデルの特徴を説明できる。 3. 成人期にある人の健康と健康障害の特徴とその対応策、予防策について述べるができる。 4. 成人期にある人に健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義を説明できる。 5. 成人期にある人の健康問題に対する援助方法を考察できる。					
	<b>授 業 計 画</b>					<b>備考</b>
1	カイダンス 1. ライフサイクルから見た成人各期の成長と発達 1) 成人各期の特徴 *理論・モデルの課題を提示					看護学概論 生涯発達論資料持参
2	2. 成人看護学に使用されている理論・モデルの概要 1) 健康信念モデル、自己効力感等					
3	2) 危機理論、ストレス・コーピング理論等の討議：各自作成した資料を基に グループ毎に発表資料作成・提出 討議・資料作成内容：理論の枠組み、定義、看護への示唆					討議・資料作成
4	3) 成人看護学に使用されている理論・モデルのグループによる発表・討議					各理論・モデルを患者に適応できるように特徴を理解する
5						
6	1. 2) 成人が持つ健康問題の多様性と健康問題 成人各期の健康と課題					国民衛生の動向を持参
7	3. 急激な身体侵襲により急性期にある患者(周手術期の状態) 1) 関連図作成方法 2) 侵襲のある治療・検査					
8	3) 手術直後～術後 24 時間以内にある人の援助 麻酔からの回復過程 4) 創の治癒過程と援助					創治癒過程資料持参
9	5) 機能障害と援助 関連図作成;呼吸・循環機能、消化・吸収機能					呼吸・循環機能、消化・吸収機能のマップ持参
10	6) 急激な健康状態の変化と看護(急性増悪)					
11	4. 慢性的な経過をたどる健康障害の患者の看護 1) 病みの軌跡の概要					
12	2) 病みの軌跡を用いた看護					
13	5. 健康の再構築への支援を必要とする対象 障害がある人の特徴と看護					
14	継続看護と健康教育					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 70% レポート・討議/発表 30%					
テキスト	・成人看護学概論 第2版 編集：大西和子、岡部聡子 スーヴェルヒロカワ					
参考図書	・看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社 ・ピエールウグ：慢性疾患の病みの軌跡, 医学書院 ・国民衛生の動向 Vol. 67					
履修上の注意	予習：1. テキストを読み、ノートに要点をまとめて、授業参加してください。 2. 成人期(思春期～成熟期)の特徴をまとめてくる(授業に使用します)。 3. 人体の機能(生理学)をまとめておく。授業は必ず事前に学習し、指定された資料等を持参すること 復習：1. 課題のレポートを提出すること。 2. 成人の健康のレベルに応じた看護の特徴と援助ポイントをノートにまとめておくこと。 3. 機能障害と援助について関連図を作成する					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30	2学年前期	木村 匡弘
授業目標	1. 生活行動に障害のある患者の特徴、看護の役割が理解できる。 2. 慢性期において医療を必要とする患者の基本的な看護援助方法が理解できる。 3. 各機能障害にある患者を総合的に理解し、予測される問題や解決のための基本的な看護援助方法が理解できる。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	生活行動に障害のある患者の特徴、看護の役割について					
2	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護 主な症状と看護 ①高次機能障害 ②運動機能障害 ③感覚機能障害					
3	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護 ①脳梗塞後遺症患者の看護 ②脊髄損傷患者の看護					
4	循環機能障害における主な症状と看護 ①胸痛					
5	循環機能障害における主な症状と看護 ②動悸 ③浮腫					
6	循環機能障害のある患者の看護 ①狭心症 ②心筋梗塞					
7	呼吸機能障害における主な症状と看護 ①呼吸困難 ②チアノーゼ					
8	呼吸機能障害のある患者の看護 ①肺がん ②気胸					
9	栄養代謝能障害のある患者の看護 主な症状と病態生理 ①腹痛 ②吐血・下血 ③腹部膨満 ④腹水					
10	⑤黄疸 ⑥肝性脳症					
11	栄養代謝能障害のある患者の看護 ①肝炎患者の看護					
12	②肝硬変患者の看護 ③肝臓がん患者の看護					
13	④膵炎患者の看護 ⑤膵臓がん患者の看護					
14	消化吸収機能障害のある患者の看護 ①潰瘍性大腸炎患者の看護②クローン病患者の看護					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	・成人看護学 慢性期看護論 第3版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーベルヒロカワ ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 著：竹村信彦 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著：吉田俊子 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 著：松田明子 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著：浅野浩一郎 医学書院					
参考図書	・看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社 ・疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂，関口恵子 学研					
履修上の注意						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1	30	2学年前期	湯浅 有加里
<b>授業目標</b>	1. 手術侵襲による生体反応を理解できる。 2. 術前・術中・術後に応じた看護の役割を理解できる。 3. 主要な術後合併症の要因、患者への影響、予防的ケア・対処ケアを理解できる。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解できる。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
<b>1</b>	周手術期の考え方 周手術期看護の特徴 ①手術侵襲による生体反応 ②周手術期にある人への看護援助の特徴					講義
<b>2</b>	周手術過程に応じた看護 周手術過程に応じた看護 術前の看護 インフォームドコンセント/手術オリエンテーション 身体準備/手術室入室					
<b>3</b>	術中の看護 麻酔導入・手術体位の固定/看護師の役割/麻酔覚醒時の援助					
<b>4</b>	術後合併症予防の看護・術後の看護					
<b>5</b>	術直後のモニタリング / 術後回復促進ケア/退院に向けたケア					
<b>6</b>	術後合併症と予防のための看護技術					
<b>7</b>	術式による特徴的な手術看護 1) -①消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術 (胃)					
<b>8</b>	1) -②消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術 (大腸)					
<b>9</b>	1) -③消化・吸収機能障害のある患者の看護 / ストーマ造設					
<b>10</b>	2) -呼吸機能障害のある患者の看護 / 開胸術 (肺) / 胸腔内ドレナージ管理					
<b>11</b>	3) -循環機能障害のある患者の看護 / PCI(冠動脈)					
<b>12</b>	4) -脳・神経機能障害のある患者の看護 / 脳室ドレナージ管理					
<b>13</b>	5) -①その他特徴的な手術看護 (女性生殖器) / 腹腔鏡下手術 ②手術後の自己管理に向けた援助					
<b>14</b>	周手術期看護に必要な看護技術、生体情報のモニタリング 離床の進め方/弾性ストッキング/輸液ポンプ・シリンジポンプ 心電図 (標準十二誘導心電図・心電図モニター) クリティカルパス					
<b>15</b>	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	終講試験 100%					
<b>テキスト</b>	・周手術期看護論 編：雄西智恵美，秋元典子 スーヴェルヒロカワ ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 著：矢永勝彦，小路美喜子 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 著：北島政樹，江川幸二 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著：川村雅文 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著：吉田俊子 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 著：松田明子 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 著：吉岡成人 医学書院					
<b>参考図書</b>	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院					
<b>履修上の 注意点</b>						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
成人看護学	専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする 患者の看護	1	30	2 学年後期	木村 匡弘 國只 世都
<b>授業目標</b>	<p>終末期にある対象の身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的变化・症状について学習する。</p> <p>1. 終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念、制度、倫理的課題について理解できる。</p> <p>2. 終末期にある患者の代表的な症状が患者に与える影響及び緩和方法を理解できる。</p> <p>緩和ケアを必要とする対象の理解と具体的な介入について学習する</p> <p>1. がん医療、がん治療の基本的な考え方と治療に対する看護が理解できる。</p> <p>2. がん患者とその家族の特徴と援助にについて理解できる。</p> <p>3. 緩和ケアにおける具体的な介入方法について理解できる</p>					
<b>授 業 計 画</b>						<b>担当</b>
1	緩和・ターミナルケア看護とは	倫理的課題	チーム医療			木村
2	終末期にある人の理解	身体的特徴	全人的苦痛			國只
3	終末期にある人とその家族の理解	死の受容過程	予期的悲嘆 悲嘆			
4	終末期にある人の症状と緩和ケア	倦怠感・浮腫・呼吸器症状・消化器症状			木村	
5		精神症状				
6	終末期にある人の症状と緩和ケア	痛み				
7	がん医療と看護	現在と動向	心理的サポート			
8	がん治療に対する看護①	薬物療法			國只	
9	がん治療に対する看護②	手術療法・放射線療法			木村	
10	造血機能障害をもつ患者の看護	白血病・悪性リンパ腫患者の看護				
11		造血幹細胞移植の看護				
12	感染症を持つ患者の看護	HIV 感染症患者の看護				
13	緩和ケアにおける看護介入①					
14	緩和ケアにおける看護介入②					
15	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験（木村 80%・國只 20%）					
<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第2版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーベルヒロカワ</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護総論 著：小松浩子 医学書院</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著：飯野京子 医学書院</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病感染症 著：岩田健太郎 医学書院</li> </ul>					
<b>参考図書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社</li> <li>疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂、関口恵子 学研</li> <li>系統看護学講座 別巻 がん看護学 著：小松浩子 医学書院</li> <li>系統看護学講座 別巻 緩和ケア 著：恒藤暁・内布敦子 医学書院</li> </ul>					
<b>履修上の 注意点</b>	<p>事前・事後学習が重要になるので、主体的に取り組みましょう。</p> <p>事前学習：事前に教科書を読み、授業計画に示した代表的な疾患の治療、検査、看護のポイントをおさえておきましょう。</p> <p>事後学習：事前に整理したポイントを講義で学習した内容を踏まえて追加、修正しましょう。</p>					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機状態にある患者の看護	1	30	2 学年後期	西村 祐枝 川内 麻己子	
授業目標	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. クリティカルな場における看護師の役割を理解する。 4. くも膜下出血患者の事例を通して、看護過程を展開できる。						
授 業 計 画						担当	備考
1	急性期看護の特性 ①救急看護の概念と現状 ②看護師に求められる能力と場の特徴 ③急性期にある人とその家族の特徴					川内	講義
2	ショック状態にある患者の看護 播種性血管内凝固を合併した患者の看護						
3	急性の循環機能障害のある患者の看護 急性心筋梗塞						
4	急性の循環機能障害のある患者の看護 急性脳出血・脳梗塞						
5	急性の生体防御機能障害のある患者の看護 ①熱傷 ②急性中毒						
6 7 8	集中治療下での看護 ① 呼吸管理 / 人工呼吸器装着中の患者の看護 ② 体液・循環管理 / 体液バランスと循環のモニタリング ③ 心臓カテーテル・中心静脈圧 ④ 心理・精神的支援 家族支援					西村	講義
9	急性の脳・神経機能障害のある患者の看護 くも膜下出血患者の看護 ① 事例					川内	演習
10	くも膜下出血患者の看護 ② アセスメント						
11	くも膜下出血患者の看護 ③ 関連図 ④ 問題点抽出						
12 13 14	救急処置法の実際(BLS 講習)					日赤 (川内)	演習
15	終講試験 まとめ						
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学 急性期看護論 ノーヴェルヒロカワ</li> <li>・系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 著:矢永勝彦, 小路美喜子 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 著:川村雅文 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 著:吉田俊子 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 著:飯野京子 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 著:吉岡成人 医学書院</li> </ul>						
参考図書	・疾患別看護過程の展開 第4版 監修:山口瑞穂子, 関口恵子 学研						
履修上の 注意点							

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする患者の看護	1	30	2 学年前期	高山 典子
授業目標	1. 慢性病患者の「病みの軌跡」、セルフケアマネジメント、セルフケアマネジメント支援を理解する。 2. 甲状腺機能障害、膠原病、慢性腎不全、糖尿病をもつ患者への代表的な看護技術が理解できる。 3. 糖尿病患者の事例を通して、看護過程を展開できる。 4. 慢性腎不全患者へのセルフケアマネジメントを踏まえた患者支援を行うことができる。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴					講義
2	慢性期にある人への看護援助 QOL、セルフケア支援、行動変容を促す支援					
3	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護 甲状腺機能障害					
4	身体防御機能障害のある患者の看護 膠原病:全身性エリテマトーデス・リウマチ					
5	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護 慢性腎不全をもつ患者の看護① 慢性腎臓病 慢性糸球体腎炎					
6	慢性腎不全をもつ患者の看護② 血液透析、腹膜透析					
7	慢性腎不全をもつ患者の看護③ 退院への支援 事例					
8	慢性の代謝機能障害にある患者の看護 脂質異常症 痛風					
9	慢性の代謝機能障害にある患者の看護 糖尿病					
10	糖尿病を持つ患者の看護① 事例 アセスメント					演習
11	糖尿病をもつ患者の看護② 関連図					
12	糖尿病をもつ患者の看護③ 問題点抽出					
13	糖尿病をもつ患者の看護④ 看護計画立案					
14	糖尿病をもつ患者の看護⑤ 評価 まとめ					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 80%・レポート 20%					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人看護学 慢性期看護論 第3版 編集：鈴木志津枝、藤田佐和 ノーヴェルヒロカワ</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 著：吉岡成人 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 著：河邊博史 医学書院</li> </ul>					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程に沿った対症看護 監修：高木永子 学研メディカル秀潤社</li> <li>・疾患別看護過程の展開 第4版 監修：山口瑞穂，関口恵子 学研</li> </ul>					
履修上の注意						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30	1 学年後期	光岡 英香 渡邊 塔子
授業目標	1. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会の動向を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。					
授 業 計 画						担当
1	老いるということ ① 加齢と老化 ②身体的・心理的・社会的側面の変化					光岡
2	老いを生きるということ ①ライフヒストリー ②死生観 ③スピリチュアリティ 老年期の発達課題 ①エリクソン ②ペック ③ハヴィガースト					
3	高齢社会の統計的輪郭					
4	高齢者の生活 高齢者の特徴をふまえて (DVD 視聴)					
5						
6	高齢社会における保健医療福祉の動向 ①ソーシャルサポート ②介護保険制度 ③高齢者医療制度					
7	高齢社会における権利擁護 ①スティグマ ②エイジズム ③アドボカシー ④高齢者虐待 ⑤身体拘束 ⑥成年後見制度 ⑦日常生活自立支援事業					
8	高齢者疑似体験					渡邊
9	老年看護のなりたち 老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用 老年看護に携わる者の責務					
10	高齢者のヘルスアセスメント					
11	身体に加齢変化とアセスメント①皮膚とその付属器②視聴覚とその他の感覚 ③循環系 ④呼吸器系 ⑤消化器系 ⑥ホルモンの分泌 ⑦泌尿生殖器 ⑧運動系					
12						
13						
14	認知機能の変化とアセスメント 認知症サポーター養成講座					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	・DVD 視聴レポート 10 点、高齢者疑似体験レポート 10 点 課題・確認プリント 20 点 ・終講試験 60 点で評価する					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 医学書院 ・国民衛生の動向					
参考図書	・ナシクグラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 編：堀内ふき，大淵律子，諏訪さゆり：メディック出版					
履修上の注意	レポート・課題に関しては、提出日を厳守すること					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30	2学年前期	中山 一美 岸本 美恵子
授業目標	1. 高齢者の特性をふまえた援助方法を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整えるために必要な看護について理解する。					
授 業 計 画						担当
1	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント	1	①発熱 ②痛み ③掻痒 ④脱水	中山		
2	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント	2	①嘔吐 ②浮腫 ③倦怠感			
3	日常生活を支える基本的活動	①基本動作と環境のアセスメントと看護				
4		②転倒のアセスメントと看護				
5		③廃用症候群のアセスメントと看護				
6	食事・食生活	①食生活に着目する意義				
7		②高齢者に特徴的な変調				
8	排泄	③摂食・嚥下機能のアセスメントと看護				
9		④食事に対する看護				
10	清潔	①排泄ケアの基本姿勢				
11		②排泄障害のアセスメントと看護				
12		③清潔の意義				
13	高齢者と生活リズム	①高齢者に特徴的な変調				
14		②生活リズムのアセスメント				
15	高齢者とコミュニケーション	①高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方				
16		②高齢者におこりやすいコミュニケーション障害				
17		③コミュニケーション障害のアセスメントと看護				
18	高齢者の死にかかわる権利の擁護	①終末期の捉え方				
19		②アドバンスディレクティブ ③リビングウィル				
20	高齢者の終末期における看護	①家族の参加と支援				
21		②チーム支援の意義と役割				
22	終末期看護の実践	①介護する家族の生活と健康				
23		②介護する家族への看護				
24	終講試験 まとめ					
評価方法	授業内で適宜実施する小テスト（10%）、終講試験（90%）で総合評価する					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 他 医学書院</li> <li>・生活機能からみた 老年看護過程＋病態・生活機能関連図 編：山田律子、荻野悦子、井出訓 医学書院</li> </ul>					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠 他 医学書院</li> <li>・根拠と事故防止からみた 老年看護技術 編：亀井智子 医学書院</li> </ul>					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30	2 学年前期	渡邊 塔子 岸本 恵美子
授業目標	1. 高齢者に特有な健康障害を理解する 2. 高齢者の健康障害に応じた援助方法を理解する					
<b>授 業 計 画</b>						<b>担当</b>
1	検査・治療を受ける高齢者の看護 ① 加齢に伴う薬物動態の変化 ②服薬管理 ③リスクマネジメント					渡邊
2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ①意義と特徴 ②生活機能向上につなぐ看護					
3	疾患を持つ高齢者の看護 ① 筋骨系（骨粗鬆症・骨折等）					
4	② 循環器系					
5	③ 呼吸器系					
6	④ 感覚器系（白内障・難聴等）					
7	⑤ 泌尿器系（前立腺肥大症・前立腺がん・膀胱がん）					
8	⑥ 脳外・神経系					
9	⑦ 褥瘡・皮膚					
10 11	⑧ 認知機能の障害：うつ・せん妄・認知症					
12	生活・療養の場における看護の展開 ①在宅高齢者 ②保健・医療・福祉施設における看護					岸本
13	高齢者のリスクマネジメント					
14	①高齢者と医療安全 ②救命救急 ③災害看護					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	授業内で適宜実施する小テスト、授業の理解をレポート（20%）・終講試験（80%）で総合評価する					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 他 医学書院</li> <li>・生活機能からみた 老年看護過程＋病態・生活機能関連図 編：山田律子、荻野悦子、井出訓 医学書院</li> </ul>					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠 他 医学書院</li> <li>・ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 編：堀内ふき、大沢律子、諏訪さゆり メディカ出版</li> <li>・老年看護学 概論と看護の実践第5版 編：奥野茂代、大西和子 ノーヴェルヒロカワ</li> </ul>					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術 (看護過程)	1	15	2 学年後期	中山 一美
授業目標	1. 健康障害をもつ高齢者の事例をもとに看護過程を展開できる。 2. 高齢者のもてる力を発揮できるように高齢者アクティビティ（レクリエーション）の実践を考えることができる。					
授 業 計 画						備考
1	高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 ①高齢者が望む生活を中心とした看護過程 ②生活行動モデルによる看護過程 ③目標志向型思考看護過程					講義
2	看護過程演習 紙上事例展開 認知症のある高齢者					演習
3	①情報収集とアセスメント					
4	②全体像					
5	③もてる力と看護の焦点抽出・明確化					
6	④看護計画立案 *グループワーク					
7	高齢者アクティビティ ・高齢者アクティビティとは					講義
8	・高齢者アクティビティの効果 ・高齢者アクティビティの計画立案 *グループワーク					
評価方法	看護過程演習課題 80% グループワーク・演習 20%					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 著：北川公子 他 医学書院 ・生活機能からみた 老年看護過程＋病態・生活機能関連図 編：山田律子、荻野悦子、井出訓 医学書院					
参考図書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 著：佐々木英忠 他 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 編：堀内ふき、大淵律子、諏訪さゆり メディカ出版 ・根拠と事故防止からみた 老年看護技術 編：亀井智子 医学書院					
履修上の注意点	事前学習：事例における疾患の病態・治療・看護のポイントを学習しておくこと					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 I	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30	1 学年前期	郷木 義子 杉山 祥子
授業目標	1. 小児看護の特徴と理念を理解する 2. 小児の成長発達と発達課題を理解する。 3. 小児をとり巻く社会状況と動向を理解する。					
授 業 計 画						担当
1	小児看護の特徴と理念 小児看護の対象・目標・役割					郷木
2	小児と家族の諸統計 ① わが国の人口構造 ②出生と家族 ③子どもの死亡					
3	小児看護の変遷 ① わが国の児童観・育児観の変遷 ②わが国の小児医療の変遷 ③現代の小児看護					
4	小児看護における倫理 ① 子どもの権利 ②医療現場で起こりやすい問題点と看護					
5	小児看護の課題 ① 疾病構造の変化と小児看護 ②社会の変化と小児看護 ③ 小児看護の専門分化					
6	子どもの成長発達 I ① 成長発達とは ②成長発達の一般的原則					
7	子どもの成長発達 II ① 成長発達に影響する因子 ②成長発達の評価					
8	新生児期・乳児期の子どもの成長発達と発達課題 I ① 形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③養育及び看護					杉山
9	幼児期の子どもの成長発達と発達課題 I ① 形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能・運動機能他 ④養育及び看護					
10	幼児期の子どもの成長発達と発達課題 II ① 感覚機能・運動機能他 ② 養育及び看護					
11	学童の子どもの成長発達と発達課題 ① 形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能・運動機能他 ④養育及び看護					
12	思春期の子どもの成長発達と発達課題 ① 形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③社会的機能 ④健康問題とその看護					
13	青年期の子どもの成長発達と発達課題 ① 形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③社会機能 ④健康問題とその看護					
14	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 ① 子どもにとっての家族とは ② 家族アセスメント ③ 母子保健・学校保健					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 90% ・ レポート 10% (郷木・杉山 各 50%)					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保[ほか] 医学書院 ISBN:978-4-260-02002-2					
参考図書						
履修上の注意	小児の理解を深めるために、日頃から様々な年齢の子どもへ関心を持ちましょう					



領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	小児看護学	小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30	2 学年後期	村田 幸治
<b>授業目標</b>	1. 小児期に多い疾患や小児特有の疾患の病態生理を理解する。 2. 小児の疾患や症状に対する診断・治療について理解する。 3. 小児に必要な看護を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護： ①先天異常（染色体性、遺伝性、外的因子など） ②出生前診断					
2	新生児疾患と看護：①新生児の看護 ②主な新生児疾患（呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、新生児仮死、脳室周囲白質軟化症、低酸素性虚血性脳症、新生児一過性多呼吸、無呼吸、先天性心疾患（概要のみ）、新生児黄疸）					
3	代謝性疾患と看護：①新生児マスキング ②先天性代謝異常 ③代謝性疾患（1型糖尿病） 内分泌疾患と看護：①内分泌器官とフィードバック機構 ②下垂体疾患 ③甲状腺疾患 ④副腎疾患 など					
4	免疫疾患・アレルギー性疾患・膠原病と看護：①アトピー性皮膚炎 ②食物アレルギー ③気管支喘息、若年性特発性関節炎、ヘノッホ・シェーンライン紫斑病 呼吸器疾患と看護：①かぜ症候群 ②クループ症候群					
5	感染症と看護：①主な感染症疾患（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、RSウイルス感染症、結核、溶連菌感染症）					
6	循環器疾患と看護：①先天性心疾患 ②川崎病 ③後天性心疾患 ③突然死 など					
7	国家試験問題演習（1～6）					
8	消化器疾患と看護：①食道閉鎖症 ②肥厚性幽門狭窄症 ③腸重積 ④胆道閉鎖症 ⑤急性胃腸炎 ⑥感染性胃腸炎 など					
9	血液・造血器疾患と看護：①貧血 ②特発性血小板減少性紫斑病 など 悪性新生物と看護：①血液腫瘍（白血病など） ②小児固形悪性腫瘍（脳腫瘍など）					
10	腎・泌尿器および生殖器官疾患と看護：①糸球体疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群） ②腎不全（腎障害） ③尿路感染症 ④先天性水腎症 ⑤泌尿器疾患（停留精巣）					
11	神経疾患と看護：①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺 ④インフルエンザ脳症 ⑤髄膜炎 ⑥水頭症 ⑦二分脊柱					
12	運動器疾患と看護：①ペルテス病 ②先天性内反足 ③先天性股関節脱臼 ④小児の骨折 筋疾患と看護：①筋ジストロフィー 精神疾患と看護：①自閉症 ②注意欠陥多動性障害 ③学習障害 ④精神遅滞					
13	眼疾患と看護：①斜視・弱視 耳鼻咽喉疾患と看護：①中耳炎 ②副鼻腔炎					
14	国家試験問題演習（8～13）					
15	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験 100%で評価を行う。					
<b>テキスト</b>	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 第2版 著：中村友彦 メディカ出版 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 著：奈良間美保他 医学書院					
<b>参考図書</b>						
<b>履修上の注意</b>	毎回の授業の最後にレポートを書いて提出すること。授業の終了時のレポートの提出により、授業への出席とみなす。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	小児看護学	小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の 援助技術（看護過程）	1	15	2学年後期	木嶋 茂子
授業目標	1. 子どもが検査・処置を安全安楽に受けるための援助技術を養う。 2. 事例をもとに健康障害を持つ子どもの看護過程を展開する基礎能力を養う。					
授 業 計 画						備考
1	1. 小児の成長・発達をとらえた看護過程の考え方 2. 看護過程の展開(個人ワーク) ①事例をもとに情報の整理、アセスメント					
2	2. 看護過程の展開(個人ワーク) ②関連図、問題リストの作成					
3	2. 看護過程の展開(個人ワーク) ③看護計画を立案					
4	2. 看護過程の展開(個人ワーク) ③看護計画を立案					
5	3. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護（GW） プレパレーション、ディストラクション ①プレパレーションとは ②プレパレーションの実際					
6	3. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護（GW） ②プレパレーションの実際					
7	③プレパレーションの発表					
8	4. 手作り玩具の作成(実習時に使用できるネーム作成) 安全につけられるよう作成					
評価方法	レポート100%					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 著：奈良間美保 [ほか] 医学書院</li> <li>・ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 編：中野 綾美 メディカ出版</li> <li>・ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 編：中野 綾美 メディカ出版</li> </ul>					
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターメディカ 写真でわかる小児看護技術アドバンス 監修：山元 恵子</li> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 著者：奈良間 美保他 医学書院</li> </ul>					
履修上の 注意点	プレパレーション、手作り玩具は小児看護学実習で活用します。 レポート提出は期日を厳守してください。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30	2学年前期	神津 トミ子 岩崎 仁美
授業目標	1. 女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識がわかる。 2. 次世代の健全育成を目指す看護について理解する。					
授 業 計 画						備考
1 2 3	母性看護の基盤となる概念： ①母性とは ②母子関係と家族発達 ③セクシュアリティ ④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護のあり方 ⑦母性看護における倫理					神津
4 5	母性看護の対象理解： ①女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ②女性ライフサイクルと家族 ③母性の発達・成熟・継承					
6 7	リプロダクティブヘルスケア： ④ 家族計画 ②性感染症とその予防 ③HIVに感染した女性に対する看護 ④人工妊娠中絶と看護 ⑤喫煙女性の健康と看護 ⑥性暴力を受けた女性に対する看護 ⑦児童虐待と看護 ⑧国際化社会と看護					
8 9	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： ①母性看護の歴史的変遷と現状 ②母性看護の対象を取り巻く環境					岩崎
10 11 12	女性のライフステージ各期における看護： ①思春期・成熟期の健康と看護					
13 14	女性のライフステージ各期における看護： ②更年期・老年期の健康と看護					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100% (神津 50%、岩崎 50%)					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 著：森恵美[ほか] 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅰ 妊産褥婦・新生児の 生理機能	1単位	30時間	2学年前期	行正 美奈
授業目標	1. 妊娠・分娩の正常経過を理解し、それぞれの身体的特性と心理・社会的特性について学ぶ。 2. 妊婦および胎児のアセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護について学ぶ。 3. 分娩期の産婦の看護について、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。					
授 業 計 画						備考
1	科目ガイダンス 母性の発揮を促す看護：①子どもを産み育てること②遺伝相談③不妊治療と看護					講義
2	妊娠の定義：①妊娠期間の教え方 ②妊娠とは ③妊娠の生理					
3	妊娠期の身体的特徴：①母体の生理的変化					
4	妊娠のアセスメント：①妊娠とその診断 ②妊娠期に行う検査とその目的					
5	胎児のアセスメント：①胎児の発育と健康状態の診断					
6	妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント					
7	生理的変化に伴う不快症状・日常生活のアセスメント					
8	妊婦と家族の看護：①妊婦が受ける母子保健サービス ②妊婦の保健相談の実際 ③親になるための準備教室					
9	分娩の要素：①分娩とは ②分娩の3要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係 ④分娩の機序					
10	分娩の経過：①分娩の進行と産婦の身体的変化 ②産痛 ③胎児に及ぼす影響 ④産婦の心理・社会的変化					
11	産婦・胎児、家族のアセスメント：①産婦と胎児の健康状態のアセスメント ②産婦と家族の心理・社会面のアセスメント					
12	産婦と家族の看護： ①看護目標の産婦のニード ②安全・安楽・出産体験が肯定的になる・基本的ニード・家族発達を促す看護					
13	妊娠期・分娩期の看護実践					演習
14						
15	終講試験・まとめ					
評価方法	終講試験 90% グループワーク・演習 10% 課題への取り組む姿勢を考慮する					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美[ほか] 医学書院					
参考図書	・ナースング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 著：横尾京子[ほか] メディカ出版					
履修上の注意	母性看護学援助論Ⅱ・Ⅲ、実習の履修へとつながる基盤となる科目です。復習をしっかりと行い、自ら積極的に学ぶことを望みます。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者	
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅱ 妊産褥婦の看護と周産期に あるハイリスクの看護	1	30	2学年前期	内門 弘子 岩崎 仁美	
授業目標	1. 産褥期の褥婦および家族について、身体的変化の理解、健康状態のアセスメント、心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。 2. 新生児の体外生活適応過程と看護援助を理解する。 3. 周産期（妊娠・分娩・産褥期）における異常とその看護援助を理解する。						
授 業 計 画						担当	備考
1	産褥期における看護：①産褥期の定義 ②退行性変化 ③進行性変化 ④産褥期の心理・社会的変化					内門	講義
2 3	産褥のアセスメント、褥婦と家族の看護、施設退院後の看護						
4	新生児の生理：①新生児とは ②新生児の機能						
5	新生児のアセスメント：①新生児の診断 ②新生児の健康状態のアセスメント						
6 7	新生児における看護：①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護 ③生後1ヶ月健診に向けた退院時の看護						
8 9	新生児の看護にかかわる技術、育児技術に関わる看護						
10 11	妊娠の異常と看護：①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥異所性妊娠					岩崎	講義
12	分娩の異常と看護： ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児付属物の異常 ⑤胎児機能不全 ⑥分娩時の損傷 ⑦分娩第3期および分娩直後の異常 ⑧分娩時異常出血 ⑨産科処置・産科手術						
13	新生児の異常と看護：①低出生体重児の看護 ②高ビリルビン血症児の看護						
14	産褥の異常と看護：①異常のある褥婦の看護						
15	終講試験 まとめ						
評価方法	終講試験 90% (内門 50%、岩崎 40%)      グループワーク・演習 10%						
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美[ほか] 医学書院						
参考図書	・ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 著：横尾京子[ほか] メディカ出版						
履修上の 注意点	女性のライフサイクルの大きなイベントである出産における周産期の看護を、ウェルネスの視点で展開するために幅広い学習を必要としています。						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅲ 妊産褥婦・新生児の援助 技術(看護過程)	1	15	2 学年後期	岩崎 仁美
授業目標	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象の事例を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。					
授 業 計 画						備考
1	ウェルネス看護診断とは					講義
2	正常褥婦の看護過程の展開					演習
3	・アセスメントから結論まで					
4	・看護診断リスト					
4	・統合 ・看護介入					
5	正常新生児の看護過程の展開					演習
6	・アセスメントから結論まで					
6	・看護診断リスト ・統合 ・看護介入					
7	帝王切開を受けた褥婦の看護過程の展開					演習
8	・アセスメントから結論まで					
8	・看護診断リスト ・統合 ・看護介入					
評価方法	レポート 100%					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学② 母性看護学各論 著：森恵美[ほか]医学書院 ・ナースィング・グラフィカ母性看護学② 母性看護技術 メディカ					
参考図書						
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15	1学年後期	平松 悦子
<b>授業目標</b>	1. ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2. 社会の価値規範や仕組みがこころの健康に及ぼす影響を理解する。 3. 精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	社会とこころのケア 現代社会における様々な社会病理現象を知る					
2	現代の精神保健について 1) こころの健康とは 2) 精神保健とは 3) ストレスと対処方法					
3	ライフサイクルと精神保健 1) 学童期 2) 思春期 3) 青年期 4) 成人期 5) 老年期 それぞれの時期の達成すべき課題と危機的状況について知る					
4	環境と精神保健 家庭、教育現場、職場、地域社会での状況と課題					
5	臨床におけるこころの健康と不健康 精神看護の役割と機能					
6	1) 精神看護に用いられる看護理論・モデル 2) 家族機能が及ぼす患者への影響 3) 求められる看護職の資質と役割					
7	地域精神保健活動と看護師が果たす役割 事例を通して考える					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験 100%					
<b>テキスト</b>	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院					
<b>参考図書</b>	・マーク・レーガン 前田ケイ監訳 ビレッジから学ぶリカバリーへの道 精神の病から立ち直ることを支援する 金剛出版					
<b>履修上の 注意点</b>	講義資料は授業ごとに配布 PP 使用 授業の前にプロジェクターの準備をお願いします。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1	30	2 学年前期	井上 知之
授業目標	1. 精神疾患の治療の基本を理解する。 2. 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備 考</b>
1	1. 精神の健康と障害      1) 精神の健康とは      2) 精神障害のとらえ方					
2	2. 人間の心のはたらき 1) 人間の心の諸活動(人格と気質・知能・意識と認知機能・感情・学習と行動・心の理論) 2) 心の仕組みと人格の発達(精神分析) 3) 心の危機とストレス(危機理論とストレス理論・コーピング・トラウマ)					
3	3. 精神症状と状態					
4	1) 特異的症状と非特異的症状 2) 様々な精神症状 (思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害・局在症状)					
5	4. 精神障害の診断と分類					
6	1) 診断と疾病分類      2) 統合失調症の病型と症状及び治療法					
7	3) 気分(感情)障害(うつの3大症状と主要症状及び治療法) 4) 神経症性障害(恐怖症性不安障害・強迫性障害・重度ストレス反応および適応障害)					
8	5) 解離性障害    6) 身体表現性障害(身体化障害・心気障害・その他) 7) その他の神経症性障害(神経衰弱・離人・現実感喪失症候群・虚偽性障害)					
9	5. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (摂食障害・睡眠障害・性機能不全・性同一性障害)					
10	(パーソナリティ障害・器質性精神障害・てんかん・知的障害/精神遅滞・心理的発達の (小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害・心身症)					
11	6. 精神科での治療      1) 薬物療法					
12	2) 電気痙攣療法    3) 精神療法    4) 集団精神療法    5) 環境社会療法					
13	7. 社会の中の精神障害					
14	1) 精神障害と治療の歴史    2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化      4) 精神障害と社会学      5) 精神障害と法制度					
15	終講試験    まとめ					
評価方法	終講試験    100%					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 著:武井麻子他 医学書院					
参考図書						
履修上の 注意点	テキストにそって、国家試験対策の講義をします。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1	30	2 学年前期	平松 悦子
授業目標	1. 精神看護の基本を理解する。 2. こころの健康障害をもつ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。 3. 精神看護における対象の回復を支援する看護を理解する。					
授 業 計 画						備考
1	こころの健康障害をもつ対象の理解					
2	1. 精神障害の歴史と法律 2. 精神障害の現状と倫理的側面 3. 人権を守るために行う倫理的配慮					
3	精神科における看護の役割					
4	1. セルフケア理論 2. オレムアンダーウッド理論 3. 具体的な事例を理論に当てはめてその人らしさを支える援助を考える					
5	精神科における看護の役割					
6	1. 入院時のケア 2. 安全な治療環境の援助 3. 身体面のケアと精神面のケアのつながり					
7	人間関係の持ち方―具体的なスタイル					
8	どのようにして他者とコミュニケーションをとるか 保健医療におけるチームワークの意義・関係性の持ち方 看護師の役割					
9	患者・家族と保健医療従事者					
10	患者との相互関係の構築とケア 感情労働としての看護 闘病を支える人間関係 患者・家族が医療従事者に求めるもの					
11	家族関係論と看護師の関わり					
12	家族関係のありかたと疾病の回復への影響 家族が危機を乗り越えるための援助					
13	ソーシャルサポートをめぐる人間関係					
14	ノーマライゼーションを育む人間関係 (自分を知ること、援助することの意味、エンパワメントを発揮する関係づくり、 セルフグループの意義と広がり)					
15	終講試験					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院					
参考図書	・パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護第2版 編：萱間真美 照林社 2015 ・系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 2017					
履修上の 注意点	講義資料は授業ごとに配布 PP 使用。授業前にプロジェクターの準備をお願いします。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助 技術（看護過程他）	1	15	2 学年後期	荒木 美津子
授業目標	1. 精神看護におけるコミュニケーション技術を理解する。 2. プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3. 事例を用いてアセスメント・看護介入を理解する。					
授 業 計 画						備考
1	患者－看護師関係の実際 ロールプレイングによる看護場面の考察					講義
2	プロセスレコードの再構成と考察 患者の反応・言動の分析					講義
3 4 5 6 7	統合失調症の患者の看護過程の展開 ①患者シート ②S データ・O データ ③アセスメント ④関連図 ⑤看護問題・看護目標 ⑥看護計画					演習
8	看護過程の展開まとめ					講義
評価方法	レポート 100%					
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 著：武井麻子〔ほか〕 医学書院					
参考図書	・精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版 著：川野雅資編集 ニューヴェルヒロカワ ・精神看護学 第2版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開 著：田中美恵子編集 医歯薬 出版株式会社					
履修上の 注意点	講義資料は授業ごとに配布 PC・プロジェクターの準備					

# 統合分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30	2学年前期	人見 裕江
授業目標	1. 在宅看護の歴史や社会的背景を踏まえて地域保健医療福祉活動の全体像を理解し、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族の特性を知る。 2. 在宅看護活動に必要な基礎、基本的態度を習得する。					
授 業 計 画						備考
1	在宅看護の目的と特徴 ③ 在宅看護とは ②在宅看護の提供の場 ③在宅看護における看護師の役割 ④地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護					
2	在宅看護の歴史と現状 ①日本の在宅看護の変遷 ②在宅看護の社会背景 ③諸外国における在宅看護					
3	対象の特徴					
4	①年齢・発達段階 ②疾患 ③障害					
5	④在宅療養状態別 ⑤ターミナルケア					
6	在宅看護の対象者としての家族					
7	①システム理論を用いた家族の捉え方 ②家族のアセスメント					
8	在宅看護の提供方法					
9	① 外来看護 ②訪問看護 ③施設での看護 ④通所サービスでの看護 療養の場の移行 ①退院支援・退院調整 ②入退院時における医療機関との連携 ③入退所時における施設との連携					
10	在宅看護介入時期別の特徴					
11	① 在宅療養準備期 ②在宅療養移行期 ③在宅療養安定期 ③ 急性増悪期 ⑤終末期 ⑥在宅療養終了期					
12	在宅看護における看護師の倫理 ①初回訪問 ②訪問看護師のコミュニケーションとマナー					
13	演習：ロールプレイ					
14	事例「訪問看護師による初回訪問」					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 90% 演習 10%					
テキスト	・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 医学書院					
参考図書	・地域医療を支えるケア ナーシンググラフィカ ・在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論 I 在宅療養者に関連する制度と展開	1	15	2 学年前期	井上 順子
<b>授業目標</b>	1. 在宅療養者を支える法律と制度を理解する。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	在宅ケアを支える制度					
2	①介護保険制度 ②医療保険制度 ③障害者総合支援法 ④難病法 ⑤医療介護総合確保推進法 ⑥医療法 ⑦その他の主な公費負担医療					
3	介護保険制度と訪問看護制度					
4	①訪問看護ステーションのしくみ ②訪問看護師の役割 ③医療保険制度と介護保険制度 ④居宅介護支援事業所のしくみ					
5	ケアマネジメントと社会資源					
6	① 会資源の活用 ②多職種連携 ③社会資源関連図（全体像）の作成					
7	療養上のリスクマネジメント 在宅看護における権利保障					
8	終講試験					
<b>評価方法</b>	終講試験 100%					
<b>テキスト</b>	・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原佳代子 他 医学書院					
<b>参考図書</b>	・地域医療を支えるケア ナーシンググラフィカ ・在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版 ・在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 改訂第2版 編：石垣和子，上野まり 南江堂					
<b>履修上の 注意点</b>						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論Ⅱ 在宅における 日常生活援助技術と援助	1	30	2 学年後期	兵頭 陽子
授業目標	1. 在宅療養患者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本的看護技術・特殊な看護技術について修得する。					
授 業 計 画						備考
1	在宅に求められる看護技術					
2	①食生活・嚥下に関する在宅看護技術					
3	②排泄に関する在宅看護技術					
3	③移動・移乗に関する在宅看護技術					
	④清潔に関する在宅看護技術					
4	在宅における医療管理を要する人の看護					
5	①褥瘡					
6	②尿道留置カテーテル					
7	③ストーマ					
8	④経管栄養、PEG					
9	⑤中心静脈栄養法					
10	⑥非侵襲的陽圧換気療法					
11	⑦在宅酸素療法					
11	⑧在宅人工呼吸療法					
12	⑨がん治療					
12	⑩疼痛緩和					
12	認知症、精神疾患を患う療養患者のケア					
13	難病（ALS）、在宅酸素・人工呼吸器を使用している療養者のケア					
14	癌、終末期の療養者のケア（胃瘻管理、人工肛門、排便、中心静脈栄養）					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 100%					
テキスト	・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 医学書院					
参考図書	・ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア ・在宅看護論 編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂 メディカ出版					
履修上の 注意点						

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論Ⅲ 在宅援助技術（看護過程）	1	15	5期生3学年前期 6期生2学年後期	兵頭 陽子
<b>授業目標</b>	1. 在宅療養者とその家族の紙上事例に対する看護過程を展開する。 2. 在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>備考</b>
1	在宅における看護過程の展開 *事例にて在宅における看護過程の展開を学ぶ					演習
2	①在宅看護過程の特徴					
3	②情報収集とアセスメント					
4	③全体像					
5	④目標の設定					
6	⑤計画立案 ⑥実施と評価					
7	在宅看護・訪問看護における看護技術 ・DVD視聴 ・シミュレーション学習					DVD
8	レポートまとめ 提出					
<b>評価方法</b>	レポート100%					
<b>テキスト</b>	・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 著：河原加代子 他 医学書院 ・在宅看護過程＋総合的機能関連図 著：河野あゆみ 医学書院					
<b>参考図書</b>	・関連図で理解する在宅看護過程 編著：正野逸子・本田彰子 メヂカルフレンド社					
<b>履修上の注意</b>	事前学習：事例における疾患の病態・治療・看護のポイントを学習しておくこと					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	医療安全	1	30 時間	2 学年後期	岡本 和恵
授業目標	1. 医療安全を学ぶ意義と事故防止の考え方や安全努力の責務が理解できる。 2. 医療事故と看護業務（診療の補助での事故・療養上の世話）での事故防止の対策が理解できる。 3. 医療チームや組織の一員としての安全な取り組みの知識・姿勢を定着させる。					
授 業 計 画						備考
1	医療安全を学ぶ意義					GW
2	①医療安全管理とリスクマネジメントの歴史と動向 ②医療におけるリスクマネジメント ③ヒューマンエラーと行動モデル ④事故報告書の書き方と分析（ヒヤリ・ハットを書いてみよう！）					
3	医療事故の考え方 ①医療事故と看護業務 ②看護事故の構造 ③看護事故防止の考え方					
4	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ①患者間違い 発生要因					
5	診療の補助業務に伴う事故防止（1）					GW
6	①患者に対して「投与する業務」における事故防止					
7	②注射業務と事故防止 ③注射業務に用いる機器の事故防止					
8	④輸血業務の事故防止 ⑤内服与薬業務と事故防止 ⑥経管栄養業務と事故防止 ⑦看護業務に必要な計算 診療の補助業務に伴う事故防止（2） ①チューブ管理と事故防止					
9	医療安全対策 組織的医療安全管理 ①システム上の問題 ②組織的な安全対策 ③ヒヤリ・ハット報告 ④ハインリッヒの法則					GW
10	危険予知訓練（KYT） ①危険予知訓練とは ②KYT4 ラウンド方式の理解 ③グループワーク・発表（タッチ&コール）					演習
11	療養生の世話の事故防止					GW
12	①療養生の世話の看護介入と非介入の事故防止 転倒転落・誤嚥・異食・入浴中の事故					
13	看護師の労働衛生上の事故防止 ①職業感染 ②抗がん剤暴露 ③放射線被ばく ④ラテックスアレルギー ⑤院内暴力					
14	医療安全とコミュニケーション ①診療の補助におけるコミュニケーション ②コミュニケーションの大切さ 《チームステップス演習》 リーダーシップ・状況モニター・コミュニケーション・相互支援					演習
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験 80% グループワーク・演習 20% レポート・課題への取り組む姿勢を考慮する					
テキスト	・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全					
参考図書	・医療安全ワークブック 第2版 著：川村治子 医学書院 ・チームステップス 日本版 医療安全 medical view ・医療安全 看護の統合と実践② メディカ出版 RCA実践マニュアル：石川雅彦					
履修上の注意	臨床現場に即した医療安全教育が展開できるように進行したい。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	1	30	3学年前期	勝間田 弥生 川島 保子
<b>授業目標</b>	1. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的能力を身に着ける事が出来る。					
<b>授 業 計 画</b>						<b>担当</b>
1	看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント					勝間田
2	看護ケアのマネジメント					
3	1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重					
4	3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践					
5	看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリア形成					
6	3) 看護専門職としての成長（社会化）4) タイムマネジメント 5) ストレスマネジメント					
7	看護職のキャリアマネジメント 1) 看護職のキャリア形 2) 看護専門職としての成長（社会化）					
8	看護サービスマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント					川島
9	3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材のマネジメント					
10	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント					
11	7) 情報のマネジメント					
12	マネジメントに必要な知識と技術 1) マネジメントとは 2) 組織とマネジメント 3) リーダーシップとマネジメント 4) 組織の調整					
13	看護を取り巻く諸制度					
14	1) 看護の定義 2) 看護職 3) 医療制度 4) 看護政策と制度					
15	終講試験 まとめ					
<b>評価方法</b>	終講試験（勝間田：50%・川島：50%）					
<b>テキスト</b>	・系統看護学講座 看護の統合と実践 看護管理 医学書院					
<b>参考図書</b>	・新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント 医療安全著：佐藤エキ子 メジカルフレンド社					
<b>履修上の 注意点</b>	グループワークや確認テストなどを取り入れ実施					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	災害・国際看護学	1	30	3学年前期	土居 正明 角野 加恵子 内門 弘子
授業目標	1. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。 2. 災害を理解し、災害看護活動に必要な基礎的知識を学ぶ。 3. 国際社会において、グローバルな視点に基づき国際的な看護・保健上の問題を理解する。 4. 諸外国の看護を理解し、看護の国際協力における組織・仕組みについて理解する。					
授 業 計 画						備考
1 2 3	I. 災害看護 1. 災害の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護の歴史</li> <li>2) 災害医療の基礎知識                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の定義、分類、原因</li> <li>・C S C A T T T</li> <li>・DMAT</li> </ul> </li> <li>・災害と情報</li> <li>3) 災害看護と法律</li> </ul>					土居
4 5 6	2. 災害看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 災害看護の定義</li> <li>2) 災害サイクルに応じた看護                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①急性期・亜急性期                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所における看護師の役割</li> <li>・災害と感染制御</li> </ul> </li> <li>②慢性期・復興期                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅における生活支援と看護の役割</li> <li>・被災者の生活に必要なリハビリテーション</li> </ul> </li> <li>③静穏期                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の自助と共助</li> <li>・災害時への備え</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3) 被災者特性に応じた看護                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①子ども ②妊産婦 ③高齢者 ④障害者 ⑤精神障害者</li> <li>⑥慢性疾患患者 ⑦在日外国人</li> </ul> </li> <li>4) こころのケア</li> </ul>					角野
7	3. トリアージ <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 意義と原則</li> <li>2) 方法、トリアージタグの取り扱い</li> <li>3) 搬送方法</li> </ul>					
8 9 10 11 12 13	II. 国際看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護学の定義</li> <li>2. グローバルヘルス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の健康問題の現状</li> </ul> </li> <li>3. 国際協力のしくみと関連する法律                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連機関、政府機関、国際NGO など</li> </ul> </li> <li>4. 文化を考慮した看護                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・EPA、FTA</li> </ul> </li> <li>5. 国際救援活動の基本理念</li> <li>6. 国際看護活動の実際</li> <li>7. 発展途上国と看護</li> <li>8. 国際救助と看護</li> </ul>					内門
14	国際看護まとめ					
15	終講試験 まとめ					
評価方法	終講試験（山口 20%・角野 30%・内門 50%）					
テキスト	・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 著：浦田喜久子(他)					
参考図書	・国際看護 言葉・文化を越えた看護の本質を体現する 学研 編：一戸真子					
履修上の 注意点	グループワークの資料は各自、グループで準備する。発表は、PPTや掲示物など工夫する。					

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	看護研究	1	30 時間	2 学年前期	
授業目標	<p>将来看護の知識に寄与しうる為の研究に必要な考え方や知識、技術を習得する。</p> <p>1. 看護職にとって研究とは何か、どんな価値をもつのか看護研究の概要を理解する。</p> <p>2. 文献検索・文献検討を実際に行い、関心のある文献を読み最新の知見に触れる。</p> <p>3. 看護研究における倫理的配慮について理解する。</p> <p>4. 質的研究・量的研究について理解する。</p> <p>5. 事例研究の進め方を理解できる。</p> <p>6. 研究成果の発表について理解できる。</p>					
	<b>授 業 計 画</b>					
1	授業に関する説明・研究とは何か・看護研究の重要性と歴史的概観					
2	研究テーマの絞り込みとその過程・情報の探索と吟味					
3	文献レビューとその方法・文献検索と文献カードの作成（演習）					演習
4	文献検索と文献カードの作成（演習）					演習
5	研究における倫理的配慮					
6	研究デザインの特徴					
7	質的研究デザインの種類と特徴					
8	質的デザインのアプローチ					
9	量的研究デザインの種類と特徴そのアプローチ					
10	データの収集（質的・量的デザイン）					
11	データの分析（質的・量的デザイン）					
12	事例研究の進め方・研究を伝える意義・文献クリティークの実際					
13	文献クリティークの実際（演習）					演習
14	文献クリティークの実際（演習）・まとめ					演習
15	終講試験					
評価方法	終講試験（70％） レポート（30％）					
テキスト	・系統看護学講座《別巻》 看護研究 医学書院 著：坂下玲子, 宮芝智子, 小野博史 その他講義中に資料を配布します。					
参考図書	・黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版 黒田裕子, 医学書院 その他、授業中に適宜提示します。					
履修上の注意	看護研究は非常に多くの労力を払わなくてはならないことを実感すると思います。しかし研究という手法に従って確かな根拠を示すことで問題解決に近づくことができます。受講によって研究力の芽を育てて下さい。					

領域	区分	授業科目	単位	時間数	時期	科目担当者	
統合分野	看護の統合と実践	統合看護演習	1	30	2 学年後期	畑島 由美子 井上 順子	
授業目標	<p>1. 既習の知識・技術・態度を統合させ、緊急・突発要件の発生時に適切な判断力・対応力や複数課題での優先性を考えた総合的な看護実践能力を養う。</p> <p>2. リーダーシップ・メンバーシップについて理解し、活用することができる。</p>						
<b>授 業 計 画</b>						<b>担当</b>	
1	看護の統合と実践を学ぶにあたって <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の統合と実践における学習内容</li> <li>・看護の統合と実践の目ざすもの</li> <li>・看護実践能力とは</li> </ul>					畑島	
2	リーダーシップ・メンバーシップとは 多重課題での優先順位の考え方						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多重課題とは ・多重課題をクリアにする能力の身に着け方</li> <li>・多重課題をどう克服するか ・複数課題での優先順位の考え方</li> </ul> ※グループワーク含む						
4	多重課題に強くなるためのケアカンファレンス・シミュレーション					井上  (演習)	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアや処置の優先順位</li> <li>・同時発生多重課題</li> <li>・同時発生多重課題</li> <li>・タイムマネジメント</li> <li>・コールへの対応と介助</li> </ul> ※グループワーク含む						
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数患者への対応</li> <li>・起こりうることを想定したリスクマネジメントと対応策の検討</li> <li>・複数患者への援助における緊急・突発要件の発生時に必要とする適切な判断力や対応力を理解する</li> </ul> ※グループワーク含む						
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数患者への優先順位を踏まえた援助計画の立案</li> </ul> ※グループワーク含む						
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画調整表の作成</li> </ul>						
9	複数患者への対応の実際（ロールプレイ）						
10							
11	OSCE（客観的臨床能力試験）の概要						
12							
13	OSCE 演習						
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・判断力・技術・マナー等、実践現場で必要とされる基本的な臨床技術の習得を評価する</li> </ul>						
15	リフレクション・相互評価						
評価方法	OSCE 評価 30% レポート 70%						
テキスト	必要時資料を配布する						
参考図書	既習のものすべて						
履修上の 注意点	G ワーク、ロールプレイ、OSCE 評価の参加をもって評価の対象とする						